

李孫
八犬傳

十一

^ 13
3704
11



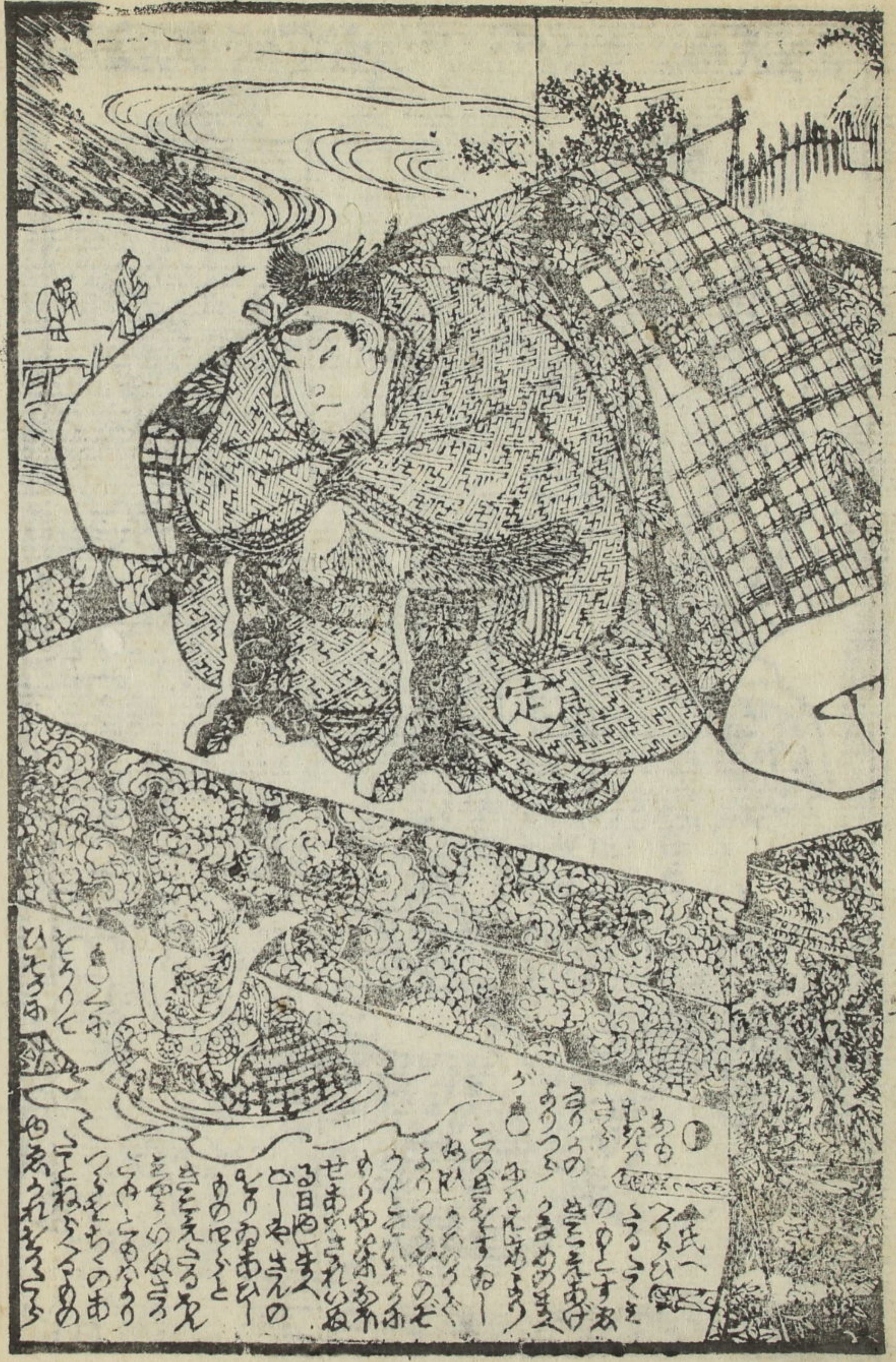
門へ13
號3704
卷11

前の録者琴童子が既廿七編の序文あり誌せる如く原本等
九十二回より九十五回よりも續き軍談で謂修羅場の媚を
婦幼ふらましく欲を繪様のなれぬ因果れと元來他作の抄
録物自在を得ると難いも攻伐戦闘を短く端折て其槩略を

筆記より此次三十編以下未發の大江が富山の出身素藤退
治の間あり妙椿比丘尼の艶麗化姿濱路姫の嬋娟を繪組
工風もは幾が毫を揮て御覽み入るに暫時辛抱あるを
序文も老實叙述るとしつり
假名垣魯文記



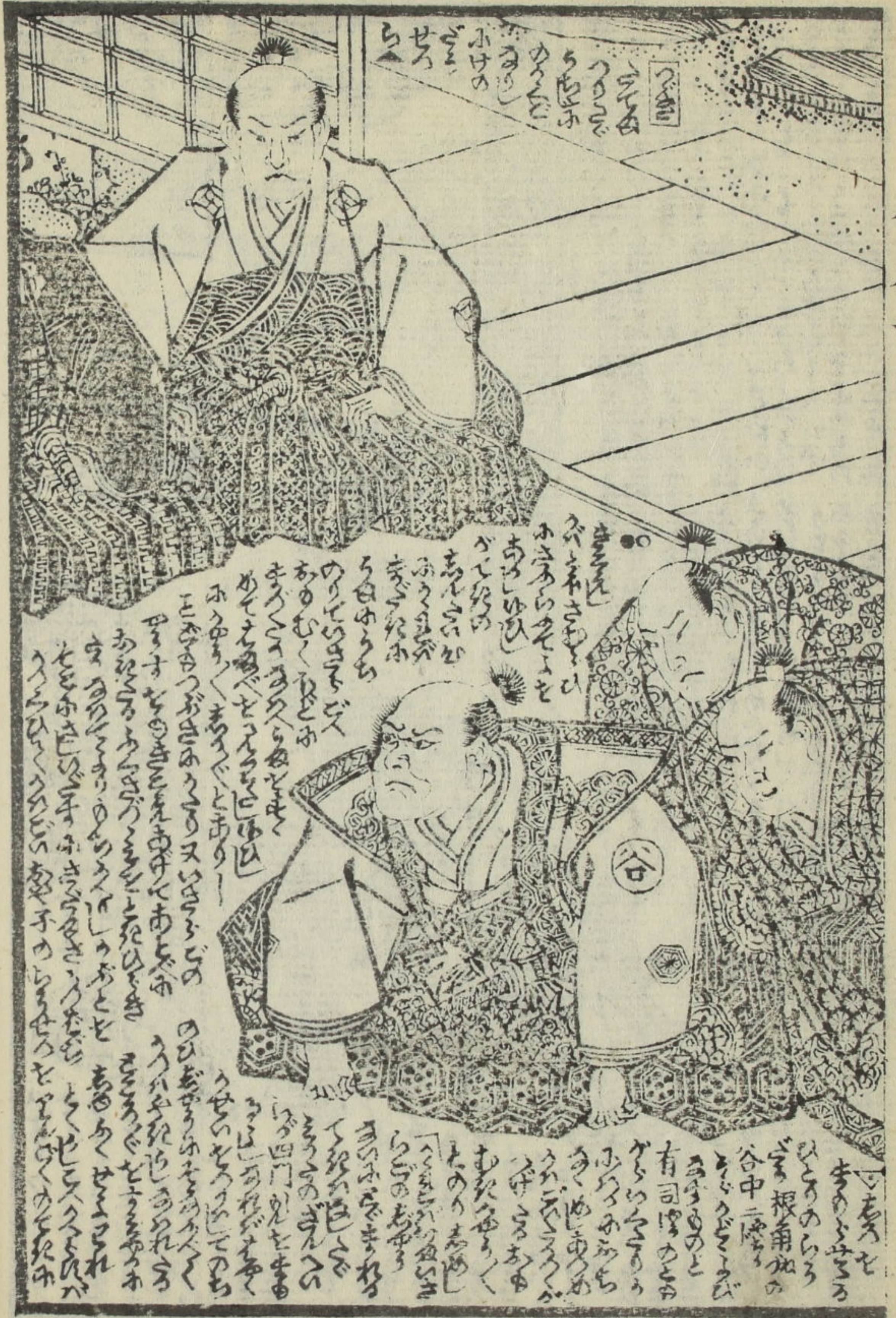




此の巻は...
 八七九
 此の巻は...
 八七九
 此の巻は...
 八七九

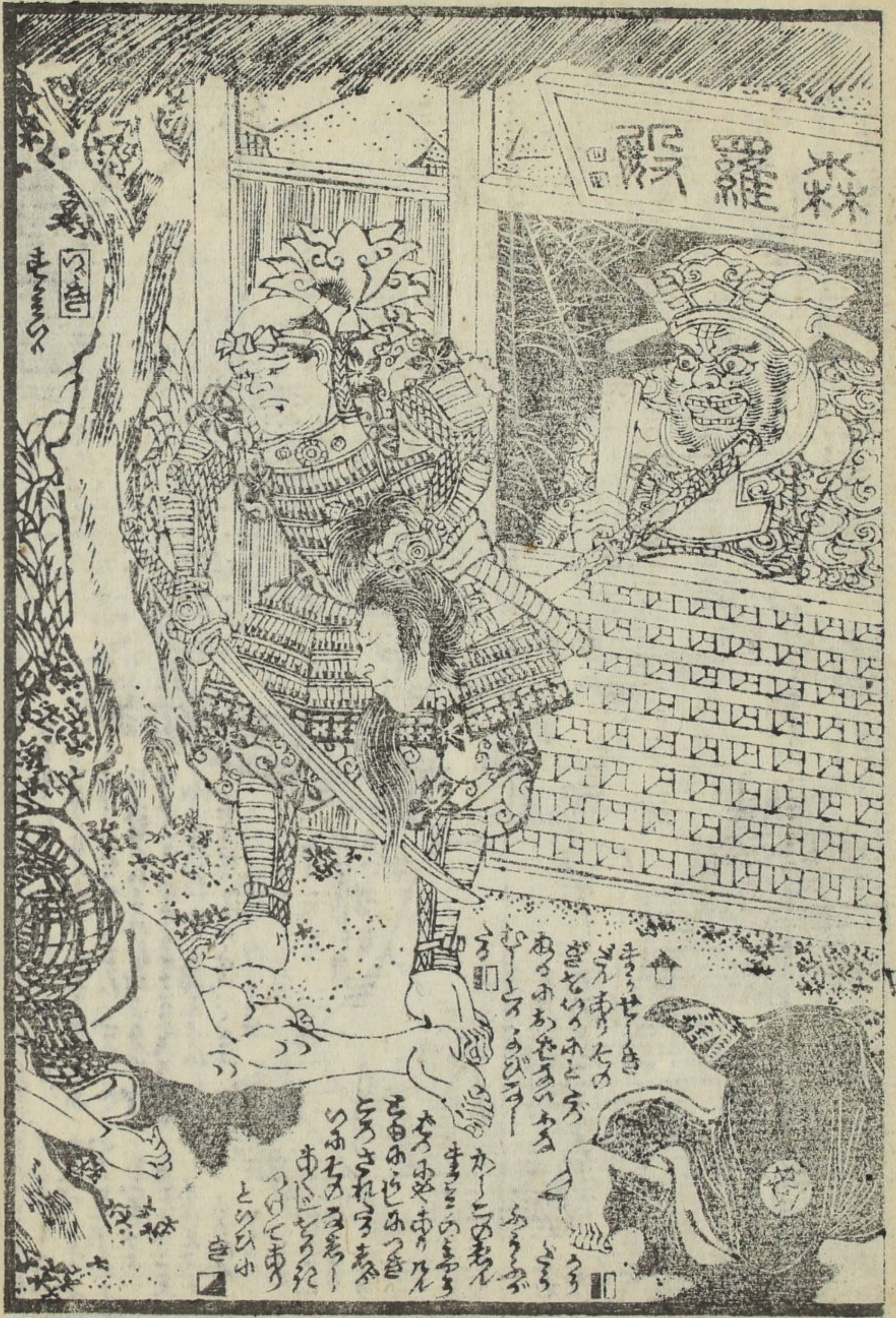


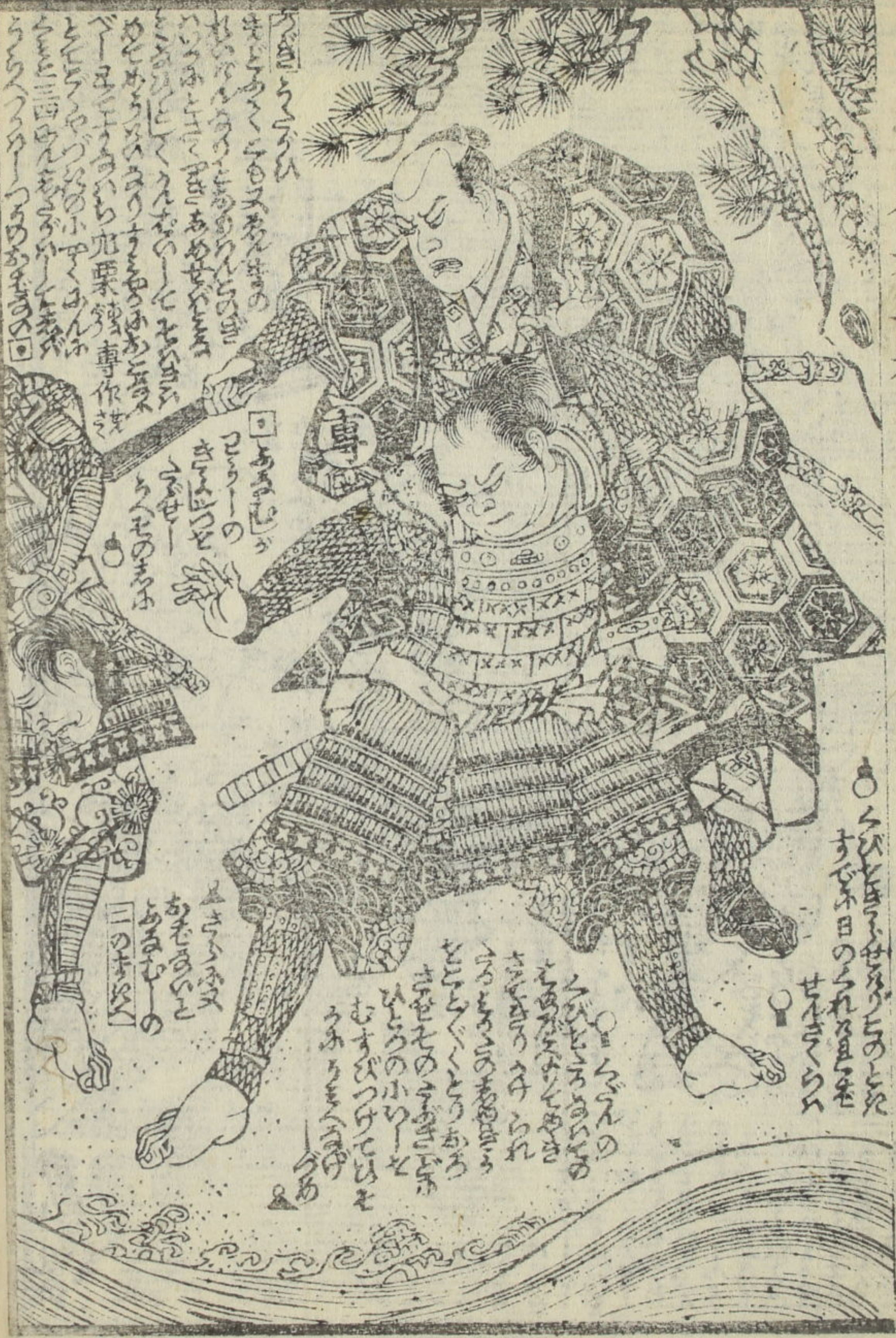
此の巻は...
 八七九
 此の巻は...
 八七九
 此の巻は...
 八七九



つねとてあはれあはれ

日





○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

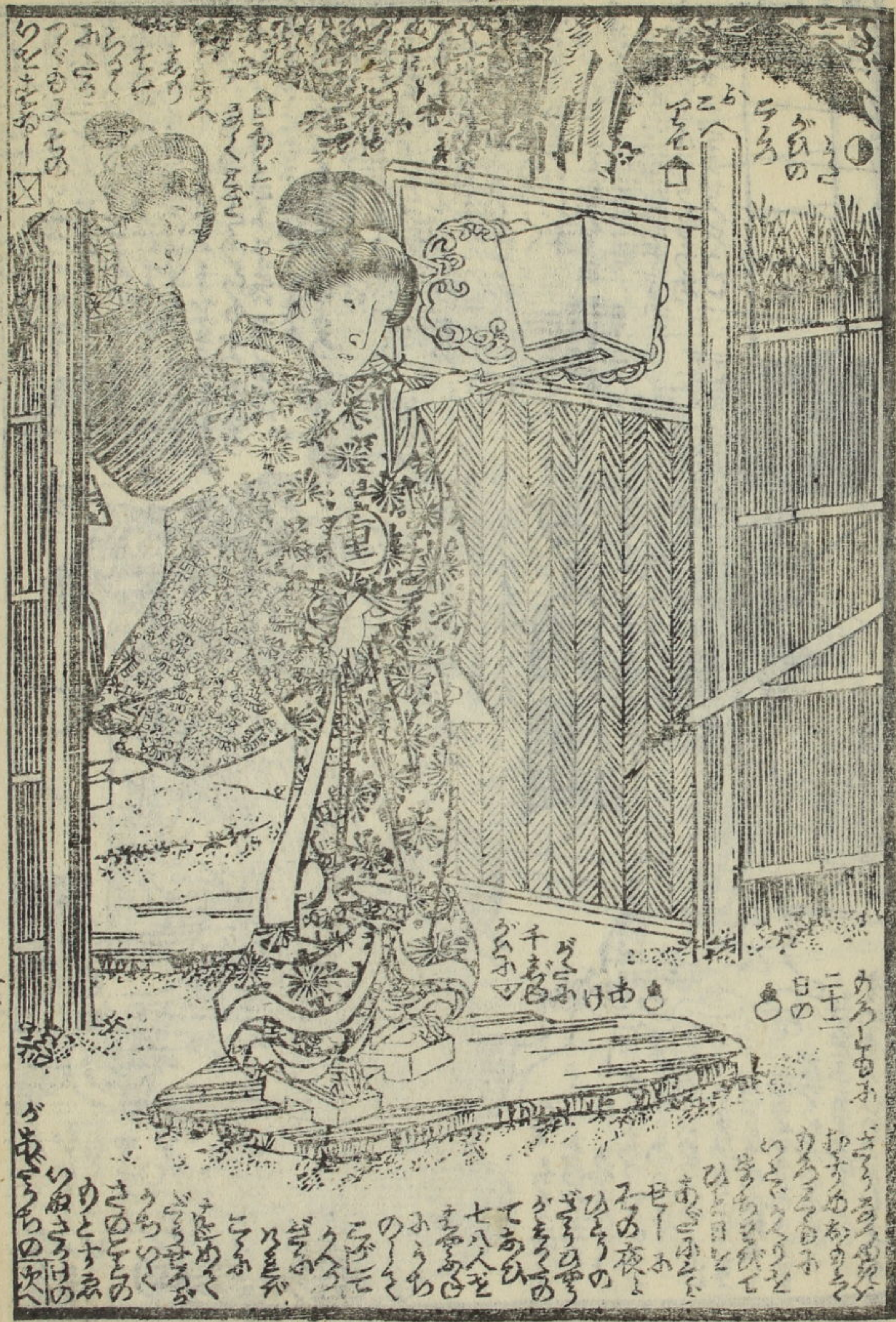


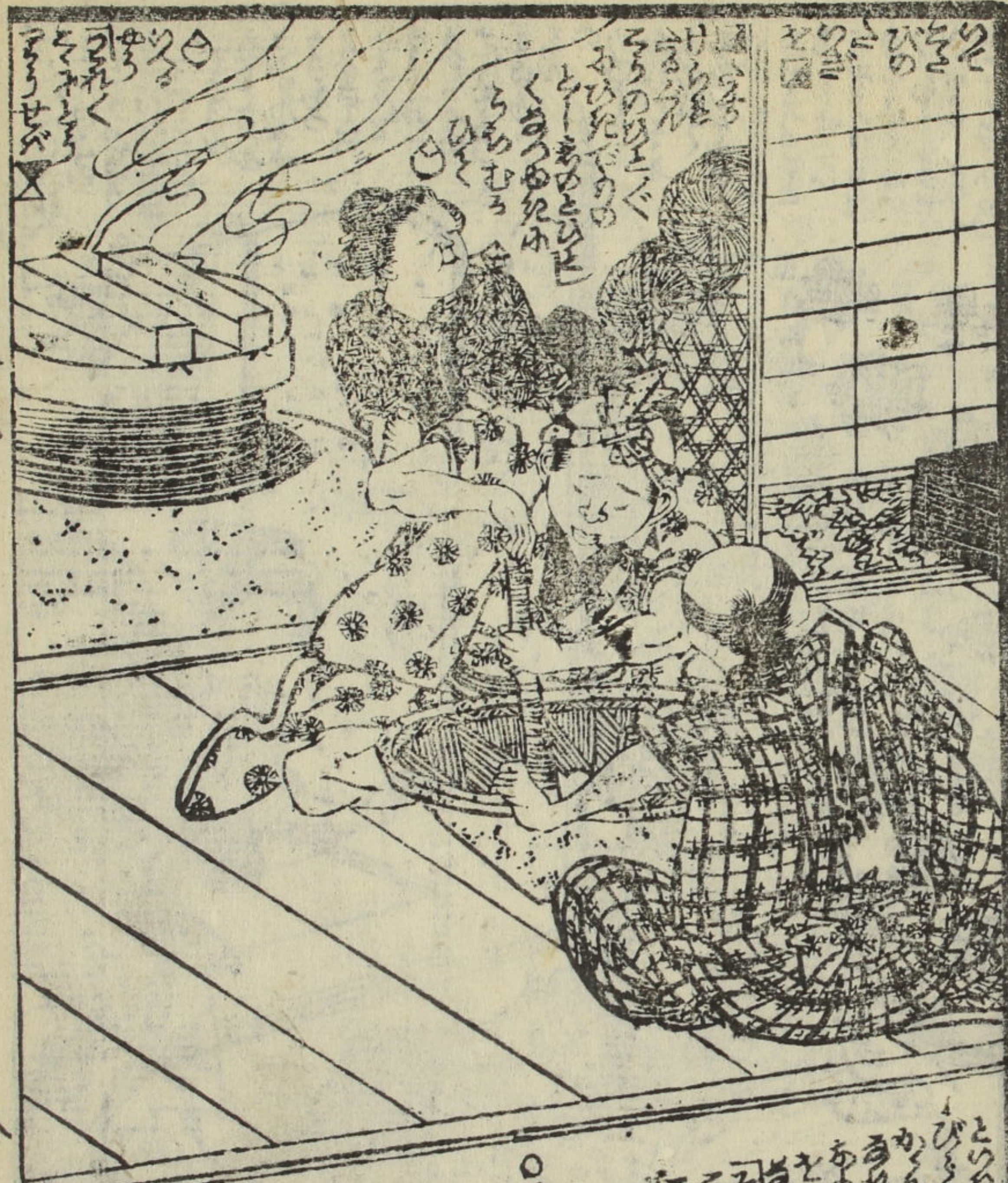
○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

○この大將の
 才力は天の
 才力に比ば
 雲霧の如き
 難とす

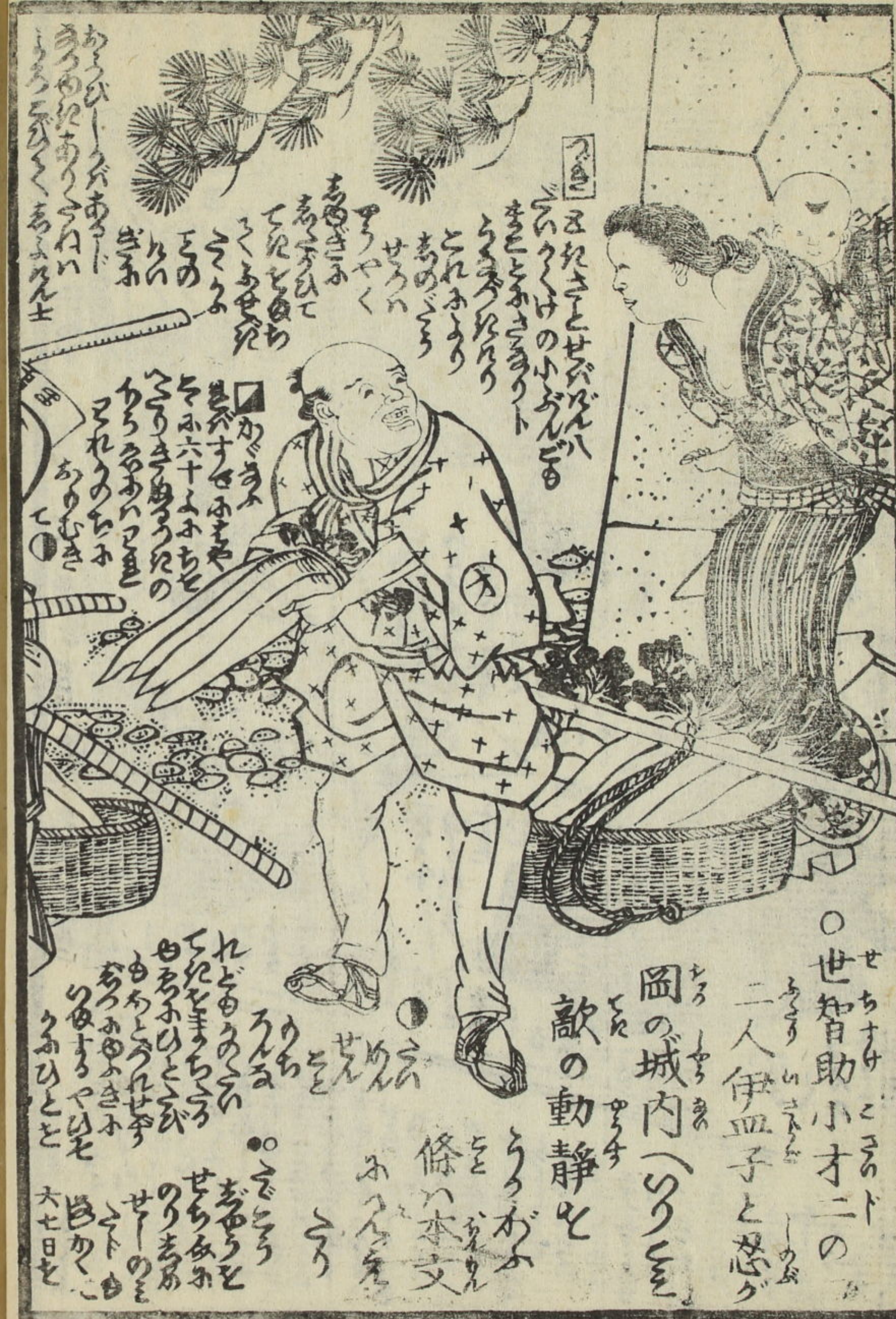




此の繪は、
 氷垣氏犬士
 等を郷食應
 の投ぬを勝
 手調理の
 ありて
 ありて
 ありて



此の繪は、
 氷垣氏犬士
 等を郷食應
 の投ぬを勝
 手調理の
 ありて
 ありて
 ありて



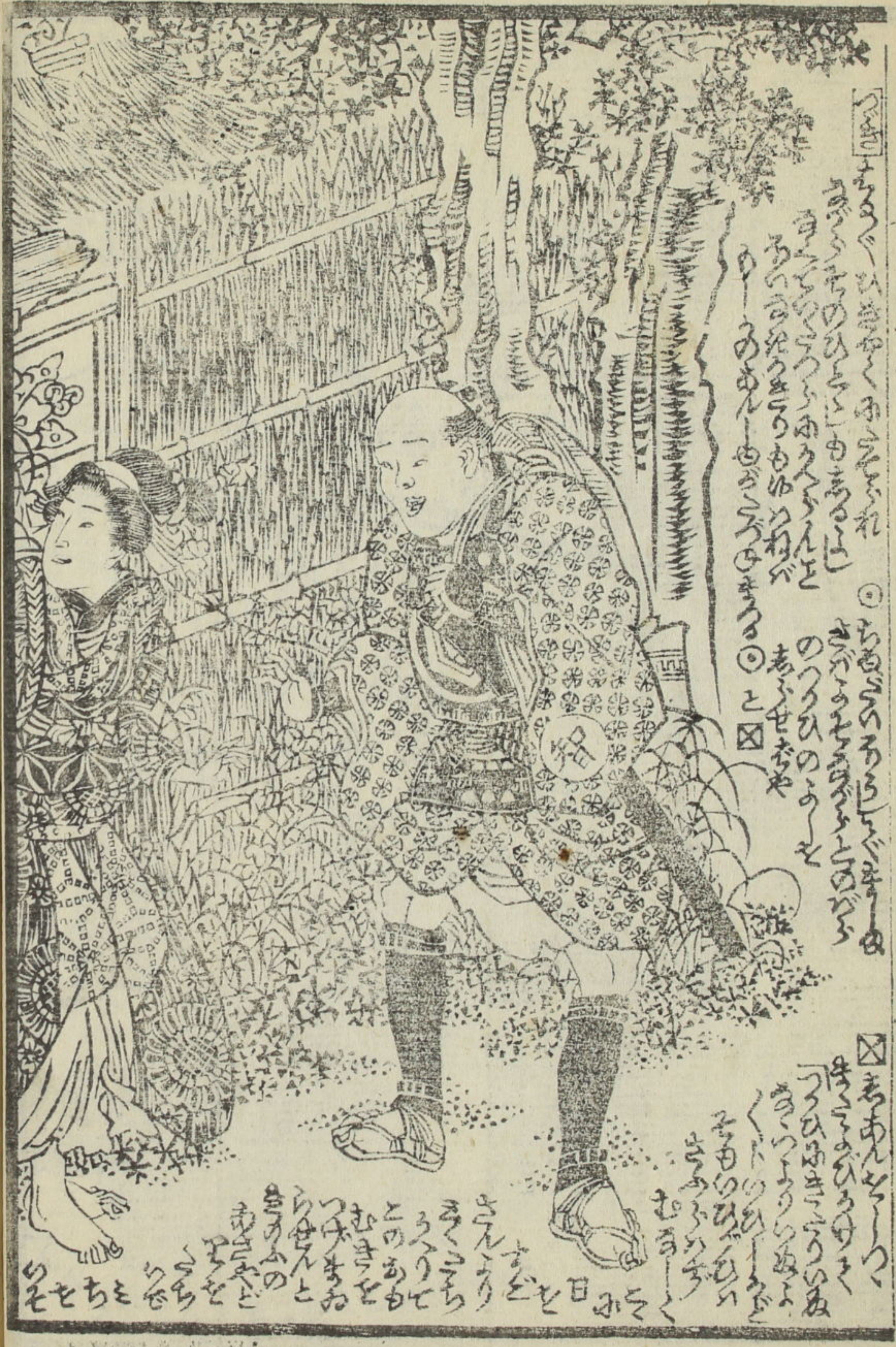
この世はさかざか
 まことかきまは
 らまふり
 これあり
 せふり
 せふり
 せふり
 せふり

○世智助小才二の
 二人伊血子と怒が
 岡の城内(りり)
 歌の動静と
 條の本支
 大七日



つひにこの世は
 まことかきまは
 らまふり
 これあり
 せふり
 せふり
 せふり
 せふり

この世はさかざか
 まことかきまは
 らまふり
 これあり
 せふり
 せふり
 せふり
 せふり



○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

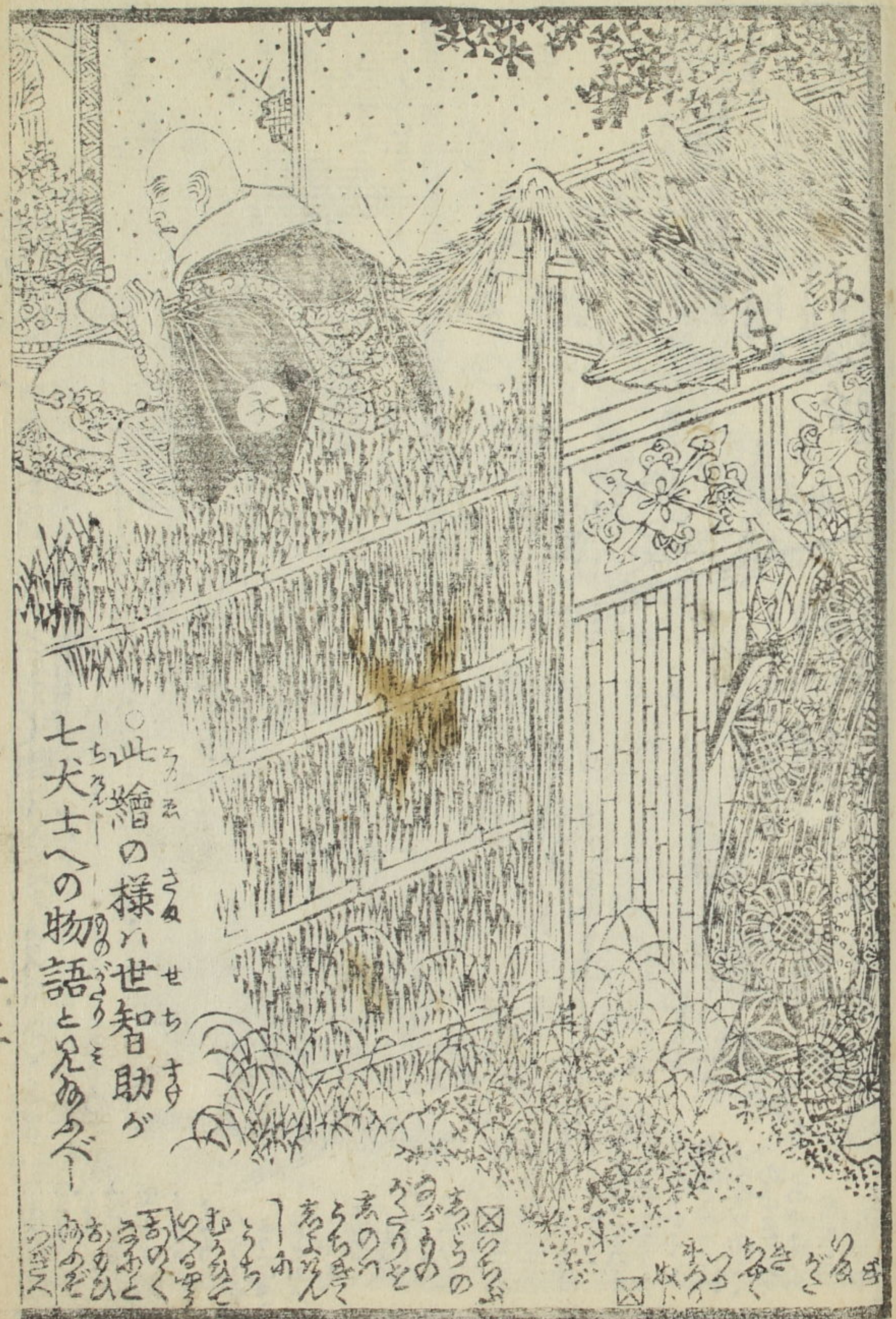
○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

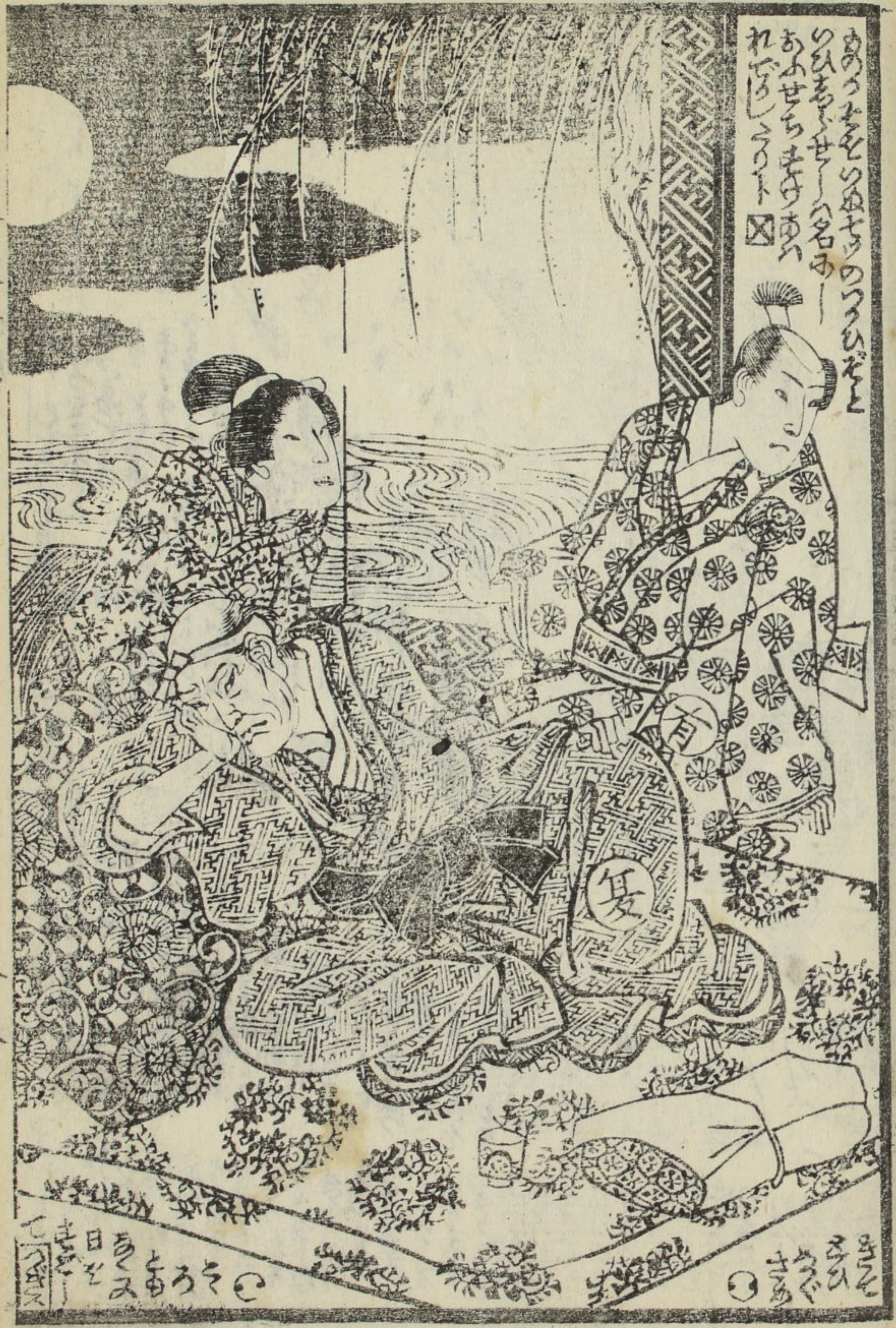


○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。

○ 此の繪の如くは、世智助が七犬士への物語と見ゆべし。



あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

まど
あつと
あつと
あつと

あつと
あつと
あつと



あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと

あつとせのぬすのついでと
しひまきせし八名あ
あふせらまはりのあ
れはしんすと



此の山は...
 河原の...
 犬の...
 橋の...
 山奥の...



八六廿九
 十三
 此の山は...
 河原の...
 犬の...
 橋の...
 山奥の...
 此の山は...
 河原の...
 犬の...
 橋の...
 山奥の...



ノ
ト
ト
ト

ト
ト



八
天
廿
九

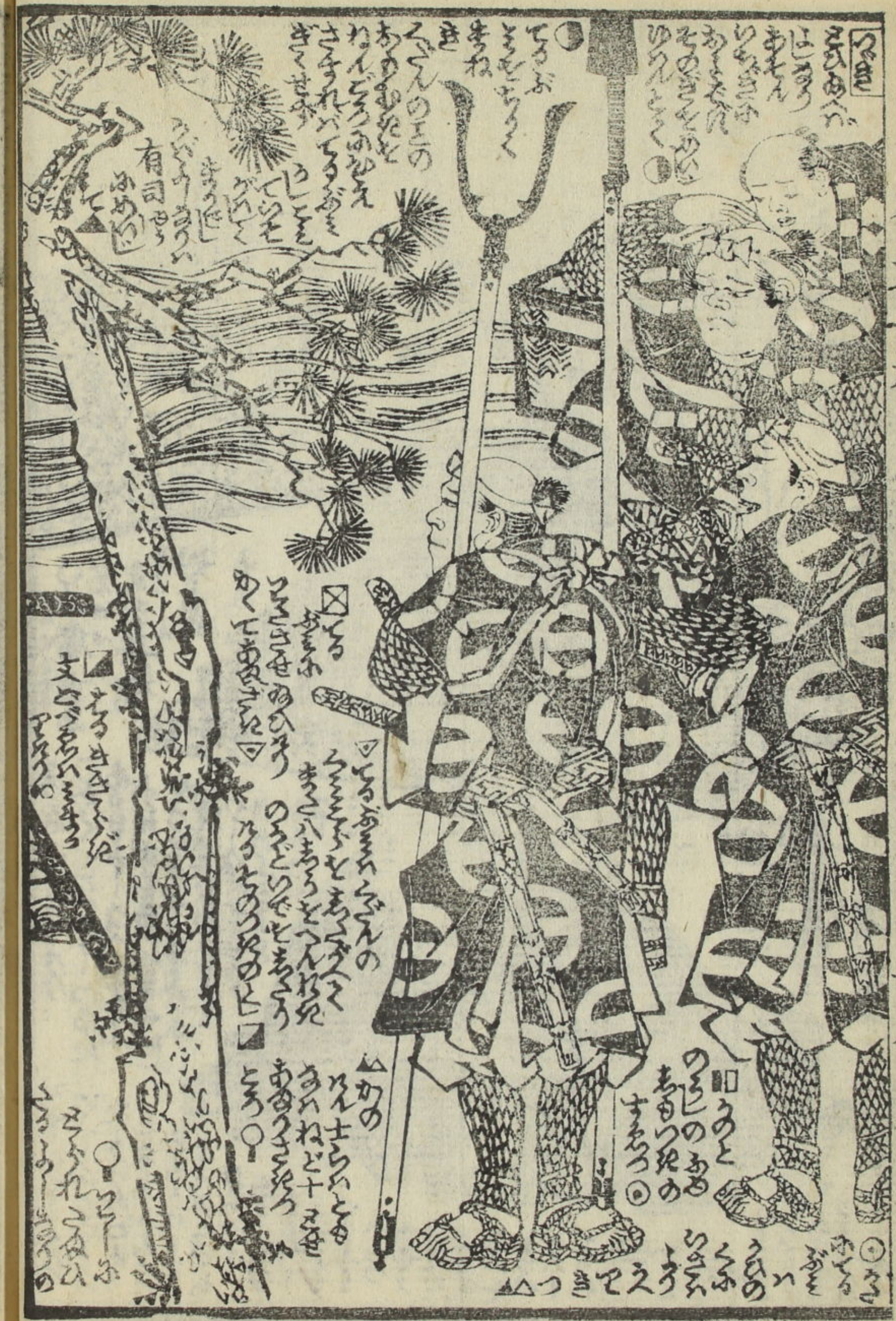
十
四



名ふて
 びんせ
 ろくろ
 むくろ
 小犬士
 らん
 べん
 きんす
 まる

うのち四
 文め
 十三

そくちよ
 びんせ
 小の
 世ふれ
 ちち
 なる
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち
 ちち



有司
 有司
 有司
 有司
 有司
 有司

有司
 有司
 有司
 有司
 有司
 有司

有司
 有司
 有司
 有司
 有司
 有司

有司
 有司
 有司
 有司
 有司
 有司

有司
 有司
 有司
 有司
 有司
 有司

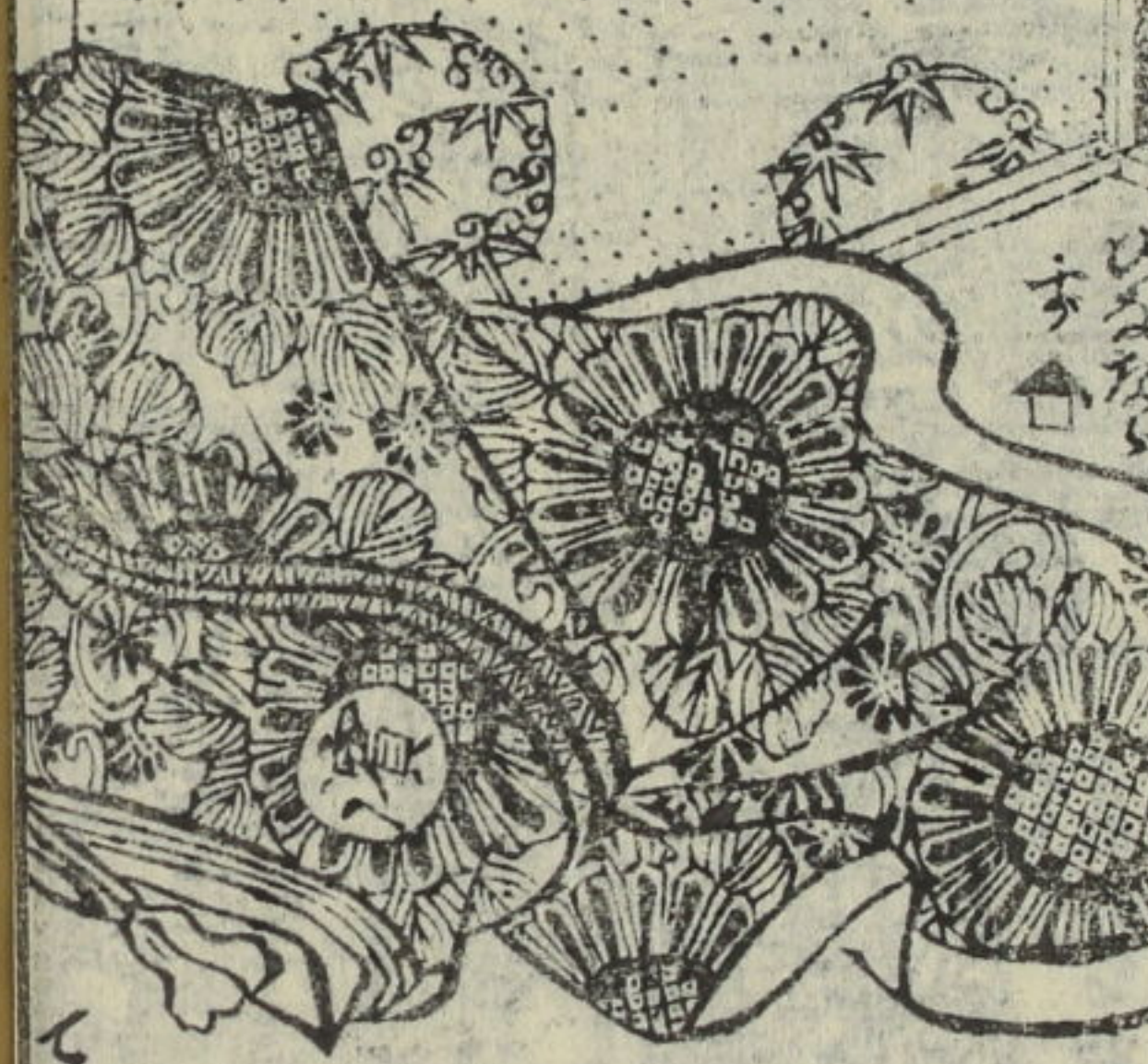
天
 七
 九

十
 五

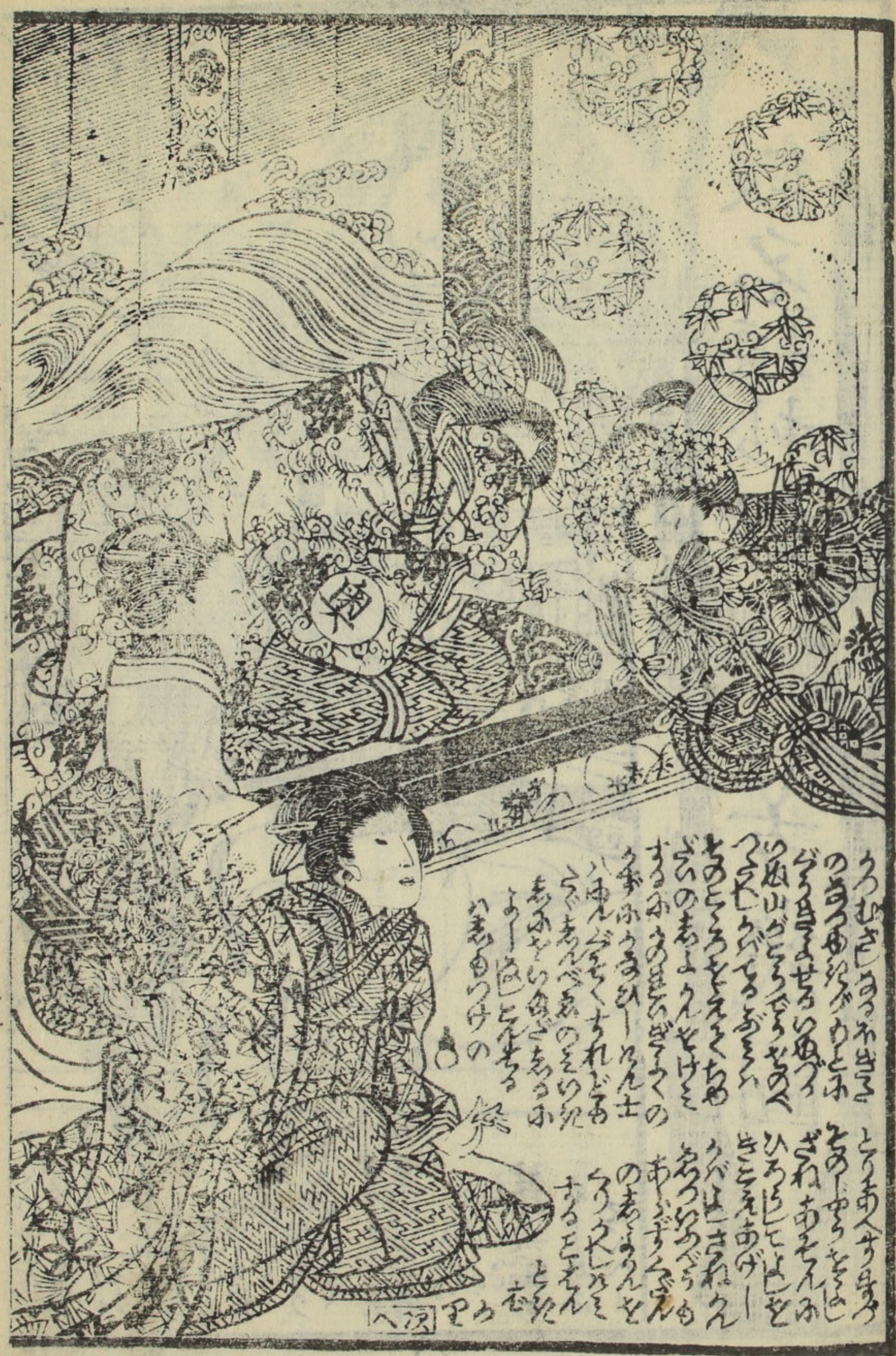
天土...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



天土...
 ...
 ...
 ...
 ...



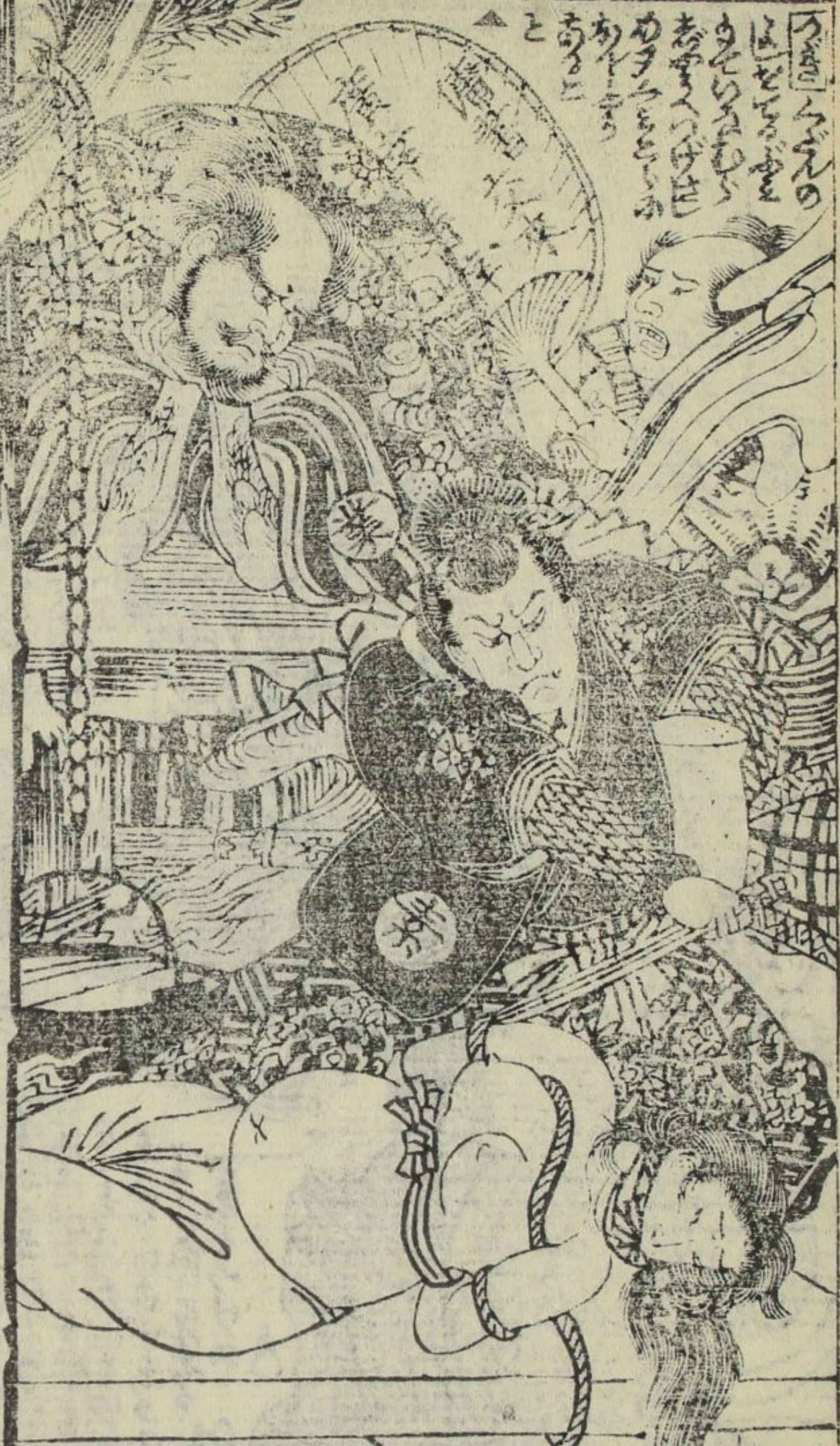
天土...
 ...
 ...
 ...
 ...



天土...
 ...
 ...
 ...
 ...

假名垣抄録

芳樂圖



万葉集の
はむらびの
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

はむらびの
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

大星氏寺岡の對して曰其元ハ足輕あしがるなり。大星の口輕くちがる也。ナト
牽頭持けんとうもちたれぬ。ト云僕去る嘉永の季歳毫採初二代記

抄録物より登庸で足輕あしがるなり。口輕くちがる漫題まんたを以の筆頭封間ひつこうそうえん
太郎次郎の犬の皮太鼓小張おのゝかわのつづみと鈍作どんさくの餘業のりご小録せうろくを八犬傳はつけんでんも昔

採ると梓屋すまやが三弦他人さんげんたにんの作意さくいを中途ちゅうとより編次へんじはさる苦心くしんハ
一ツと勿体むたいしくもはめはめのせと抄録物の哀あはれを以一帙上下いちじょうじやうの潤筆じゆんぴつと

鉢子坊主はちごぼうずの報謝米ほうしゃい惜おぼら口風くちかぜむす。くさるくさる述懐じゆたいも九大夫くさうだいが歌うたの犬
因ゆゑの我別号わがべつごうの假名手本かみなてほん義士ぎしと犬士いぬしの郷音きやうおんもさへ 魚日文記





濱路姫

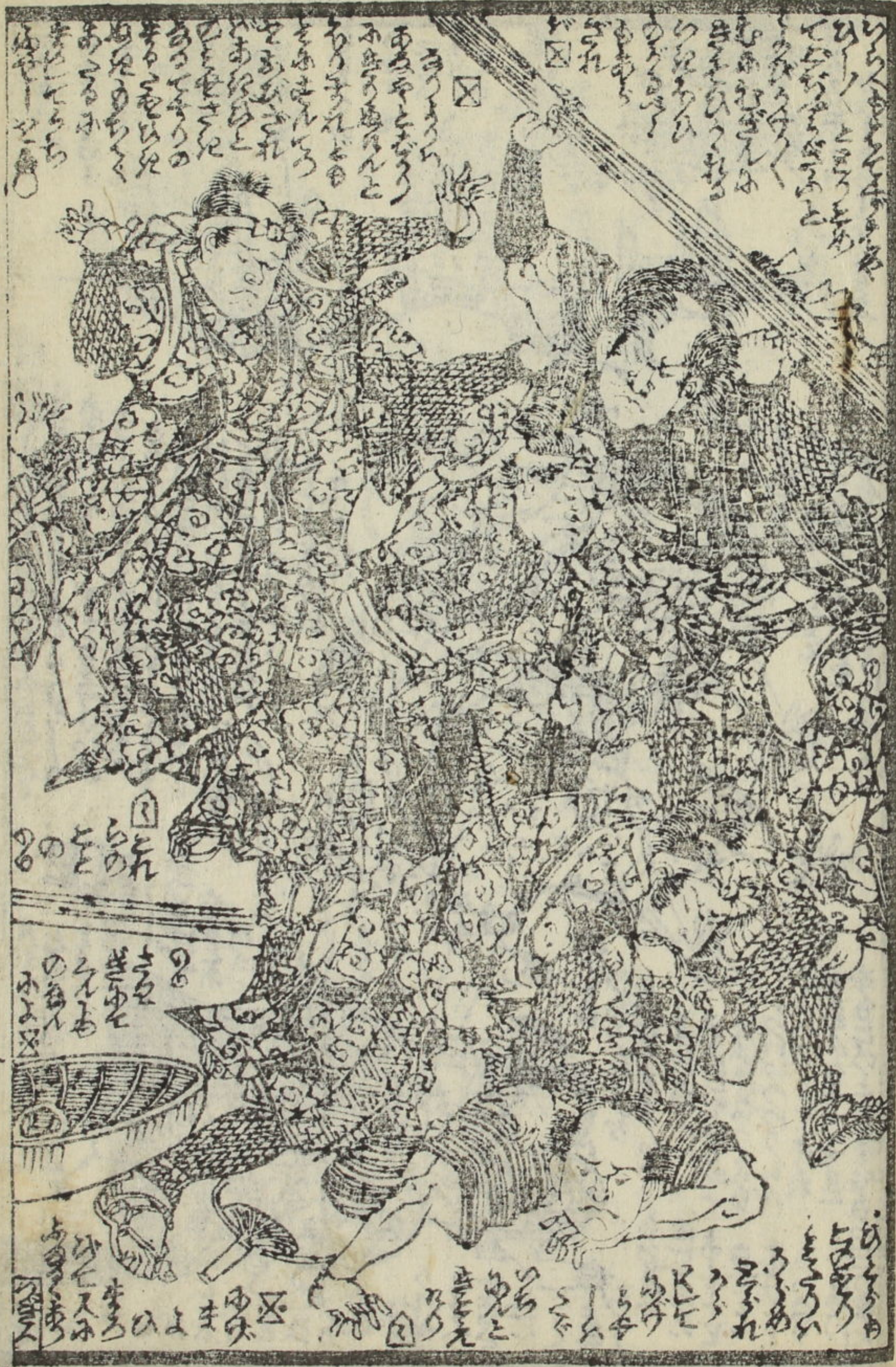
平田張盆作

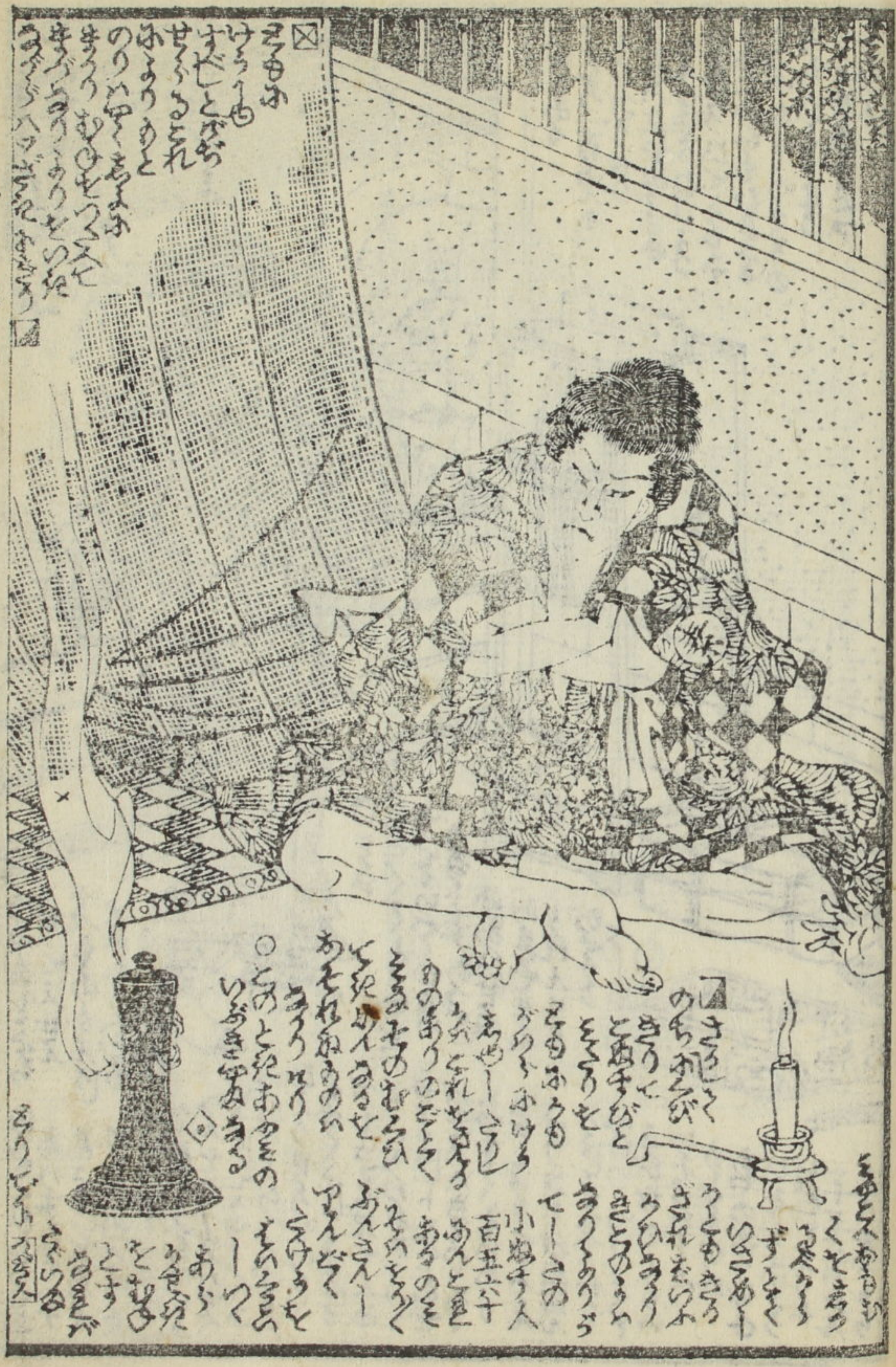


里見義成

八代傳三十一

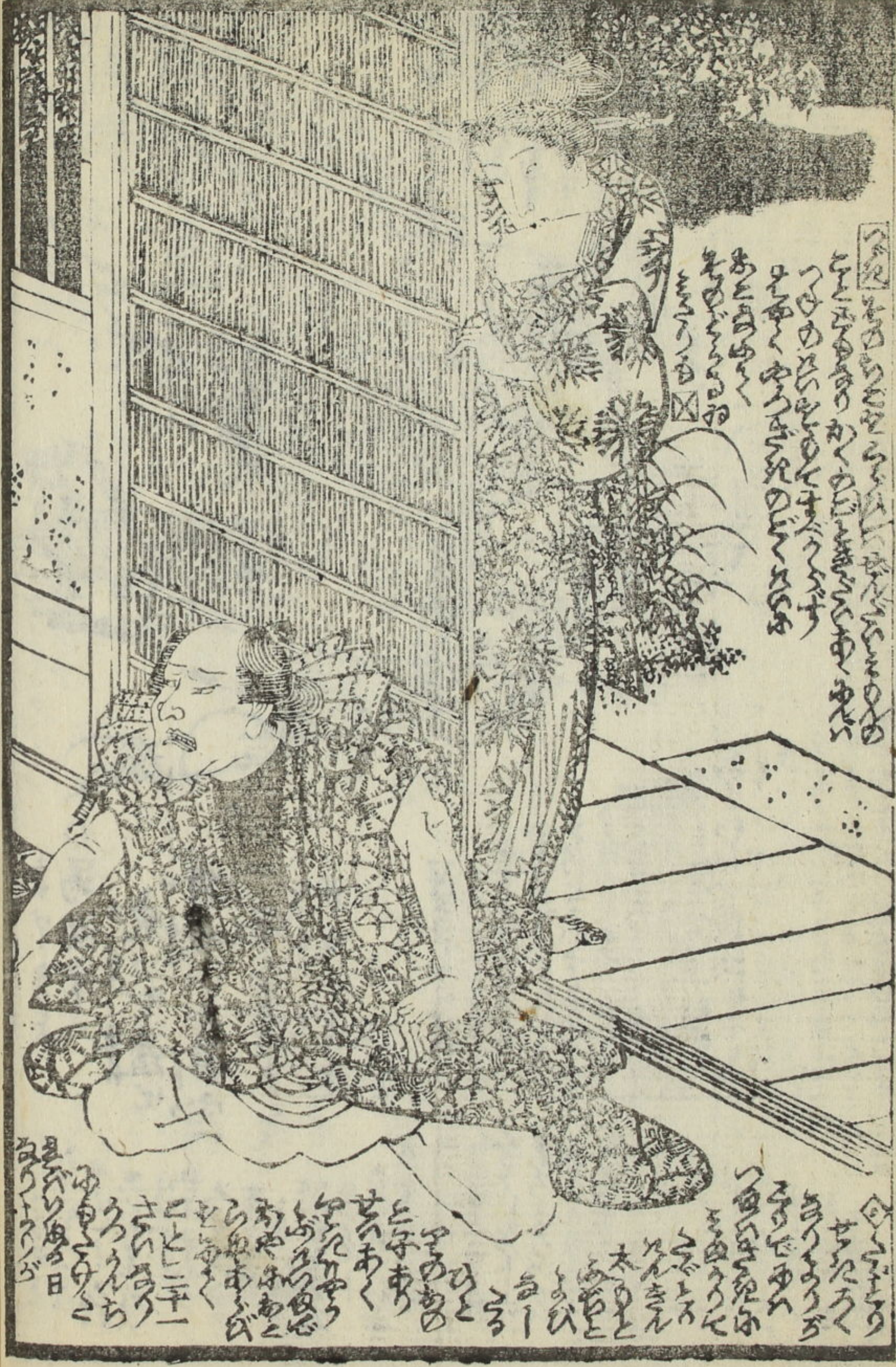






〇とてはあかき
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう

〇とてはあかき
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう

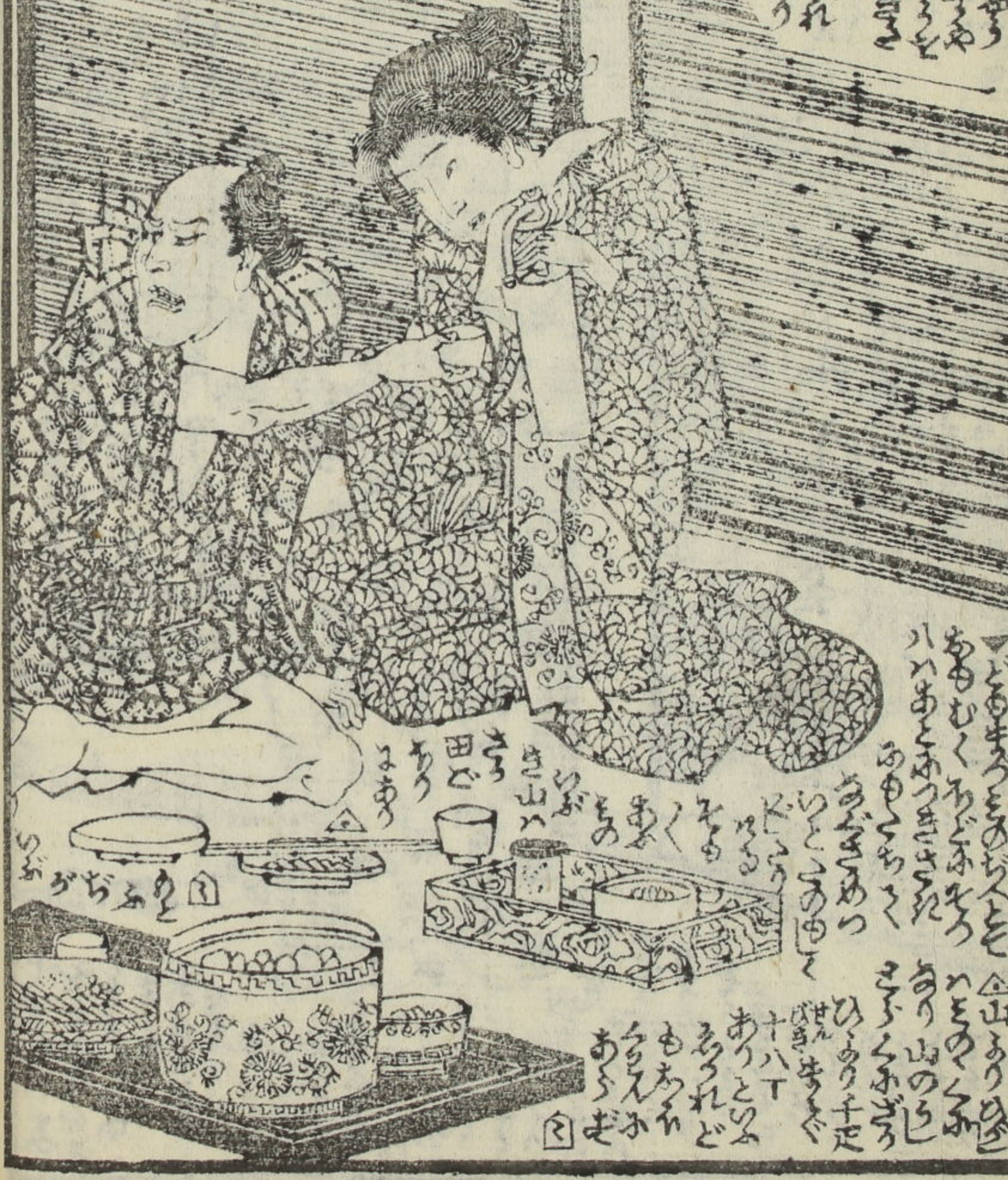


〇とてはあかき
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう

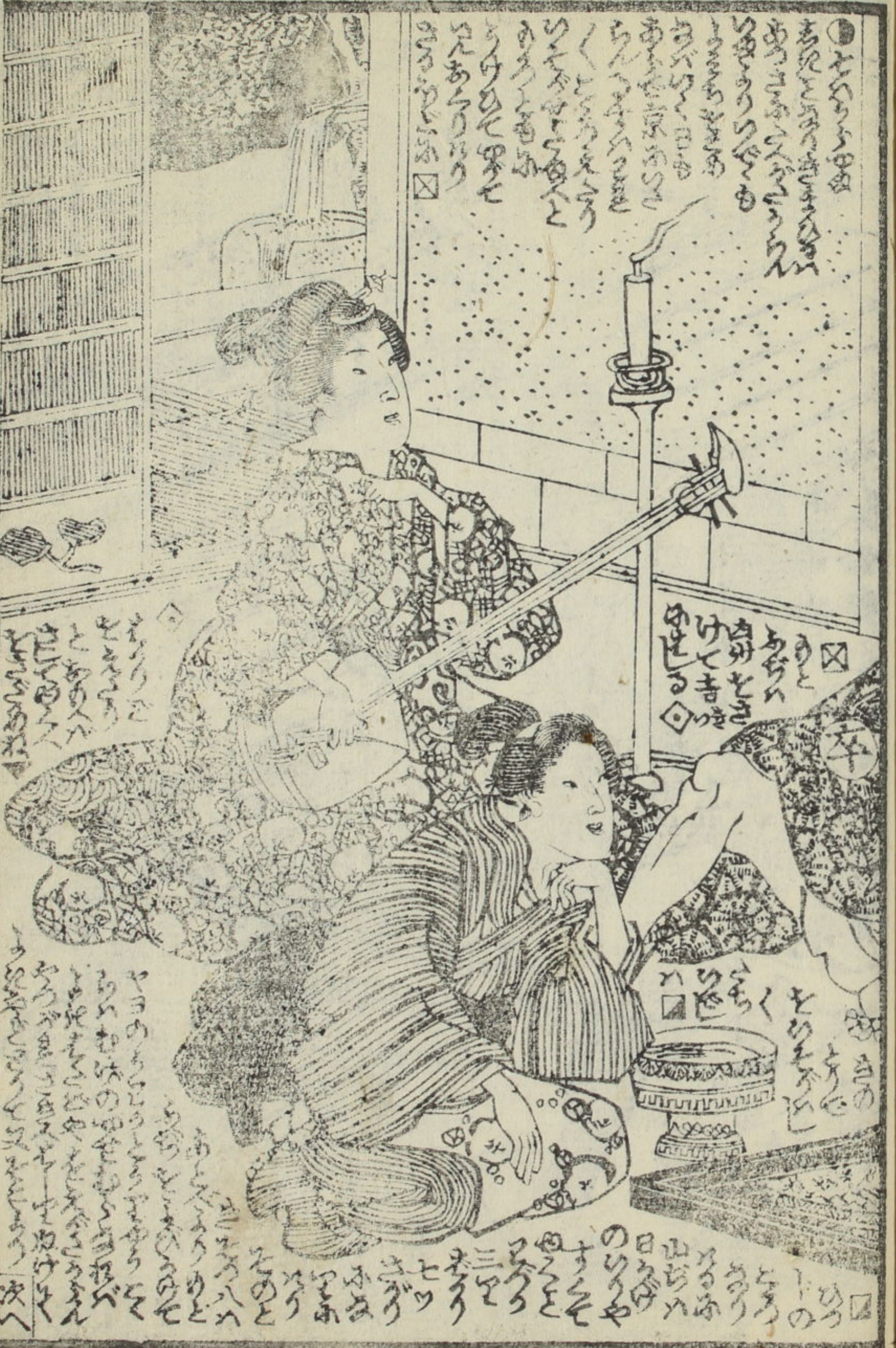
〇とてはあかき
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう
 のちのちの
 せうせう

あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら

あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら



あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら



あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら

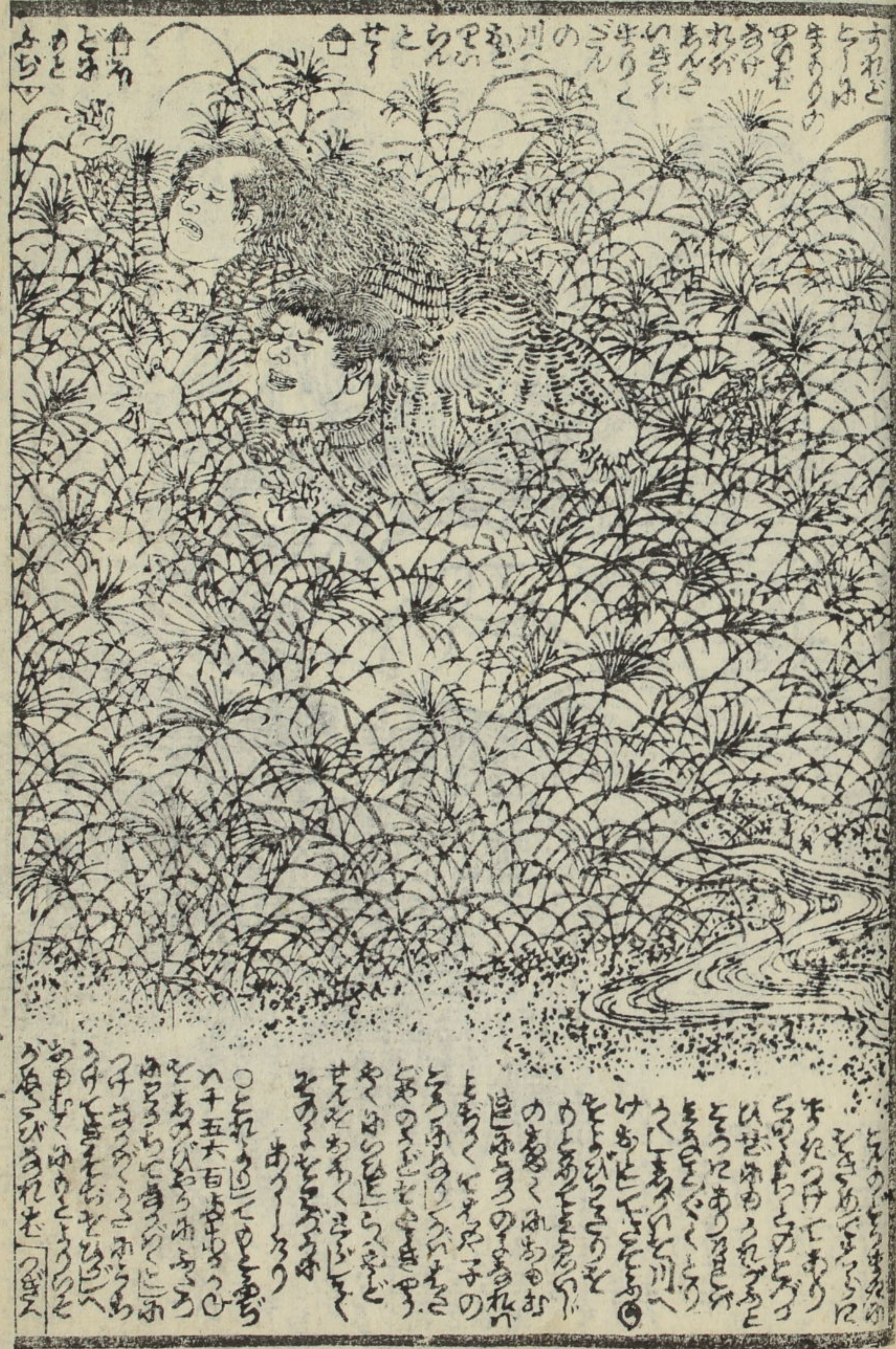
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら

あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら
あつちのよめとつらつら



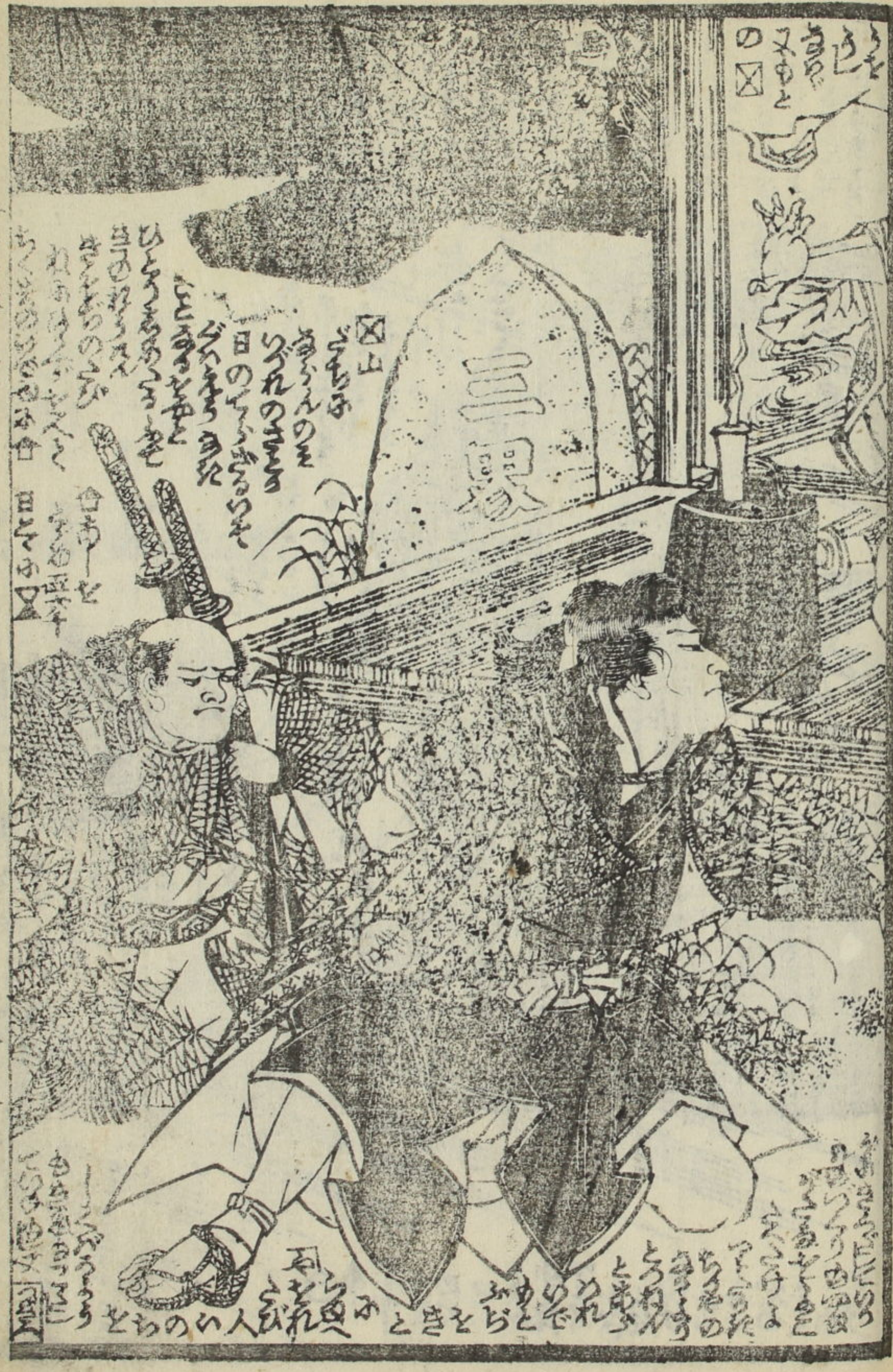
あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま

あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま



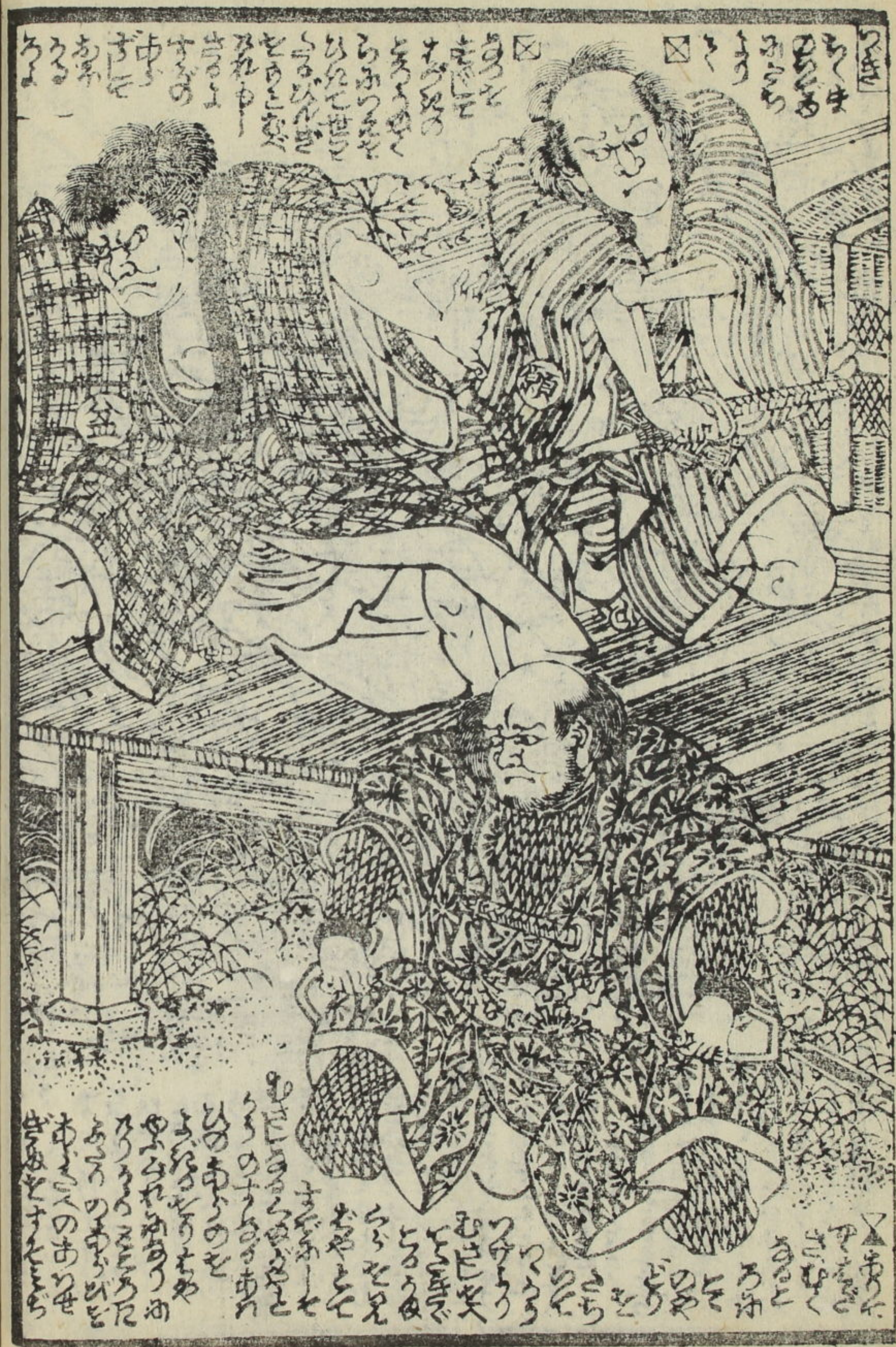
あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま

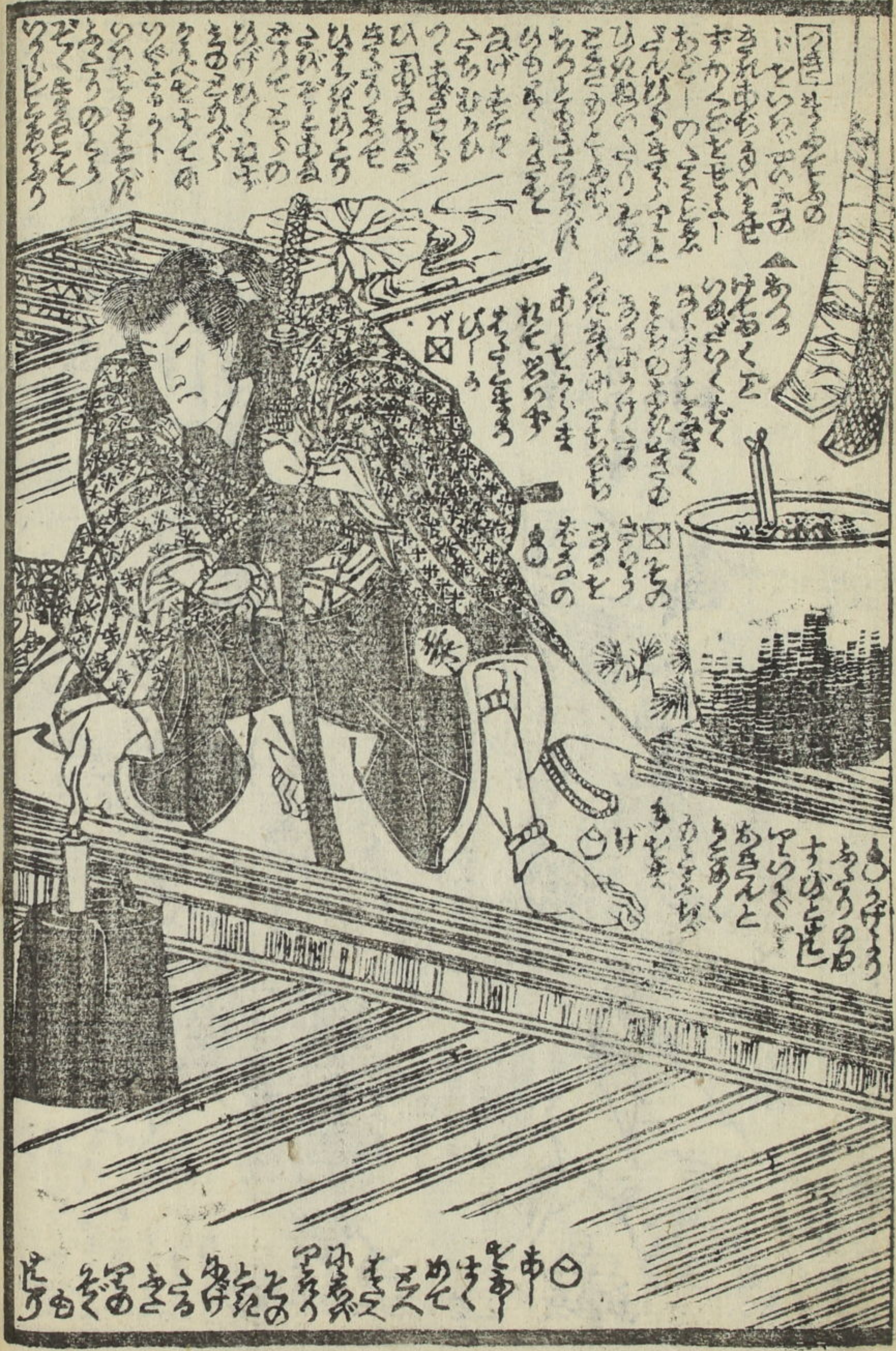
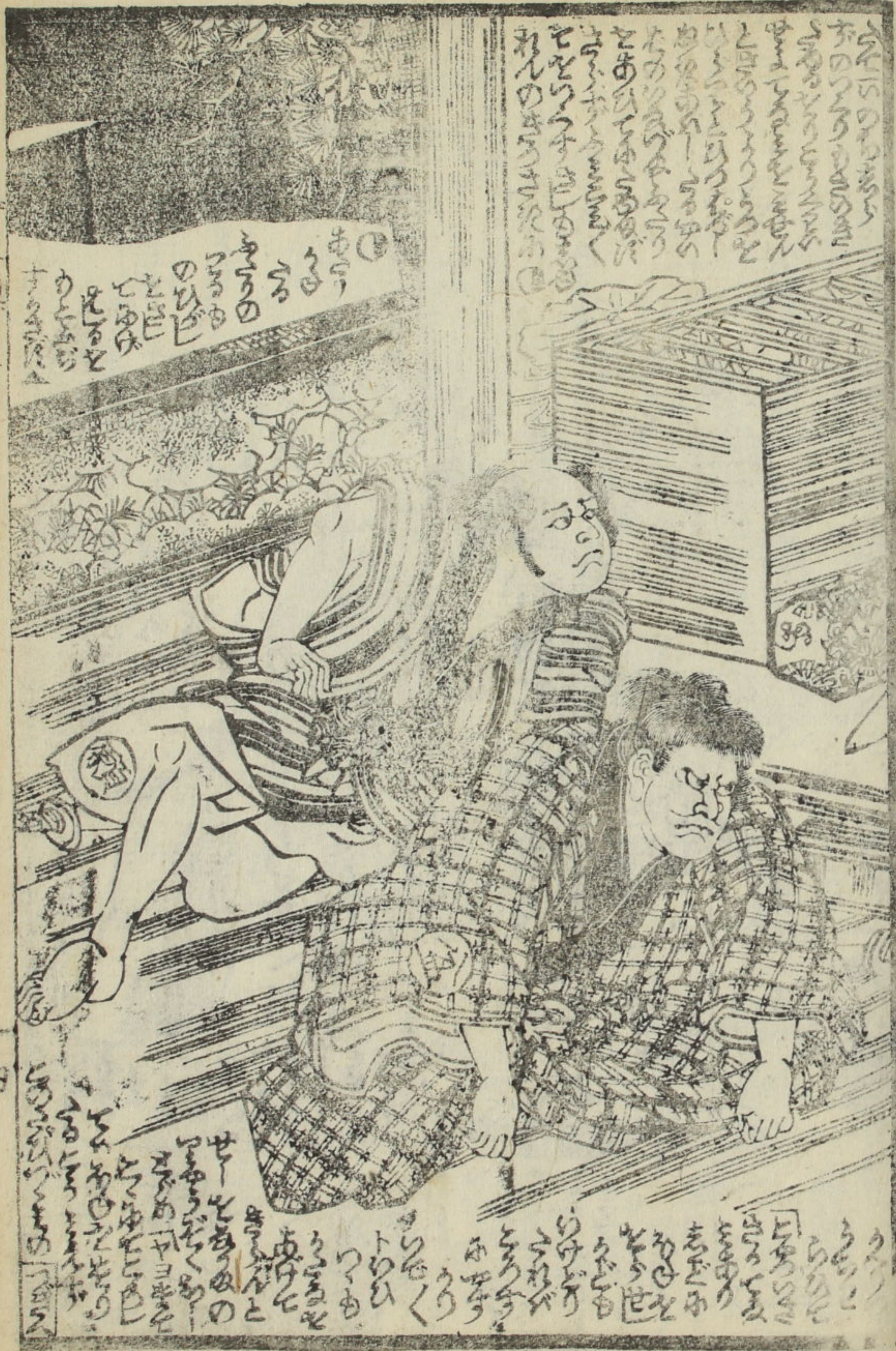
あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま
 あつちのうらやまのうらやま



大傳三十

十三







あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ



あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ

りんそつ八つあふら
あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ

あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ



あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ



あやむきしむせんとあふら
さうすれをりてふれとあふら
あつそつ八つあふら
せ



此繪
分鮮

編み
ある
てせ

いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの

いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの

いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの



あきふ

三十一

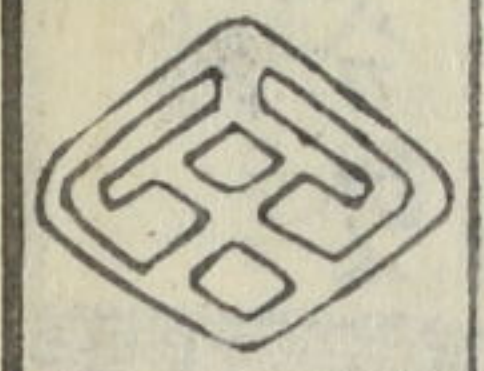
いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの

いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの

いれぬくまふとておの
のりふりつちりて
そのおもひをいひ
はしあひのしあひの
かゝるのしあひの



魚日文抄録



芳幾画圖



舶來奇品火燭店

原書の唐山施耐庵翻案の皇國乃著作堂天剛地
 敵の星は員百と除きて八算の數は換る十露盤玉
 二轉作二品乃一種生得水滸は請賣を又取次の
 八犬傳因む針題も讀と哥假名といふ名を賣物の
 名聞名利蠅頭微利諸色の高價ゆひ死んぬ鼻肌
 低き見職の直段は志れと文人商人雷門の定店飛り
 跋う妻ツと轉宅告條めして序きるにまん
 涅槃堂の
 いろは長家の
 假名垣魚日文戯誌

本朝魁種八虎店

天傳三十一



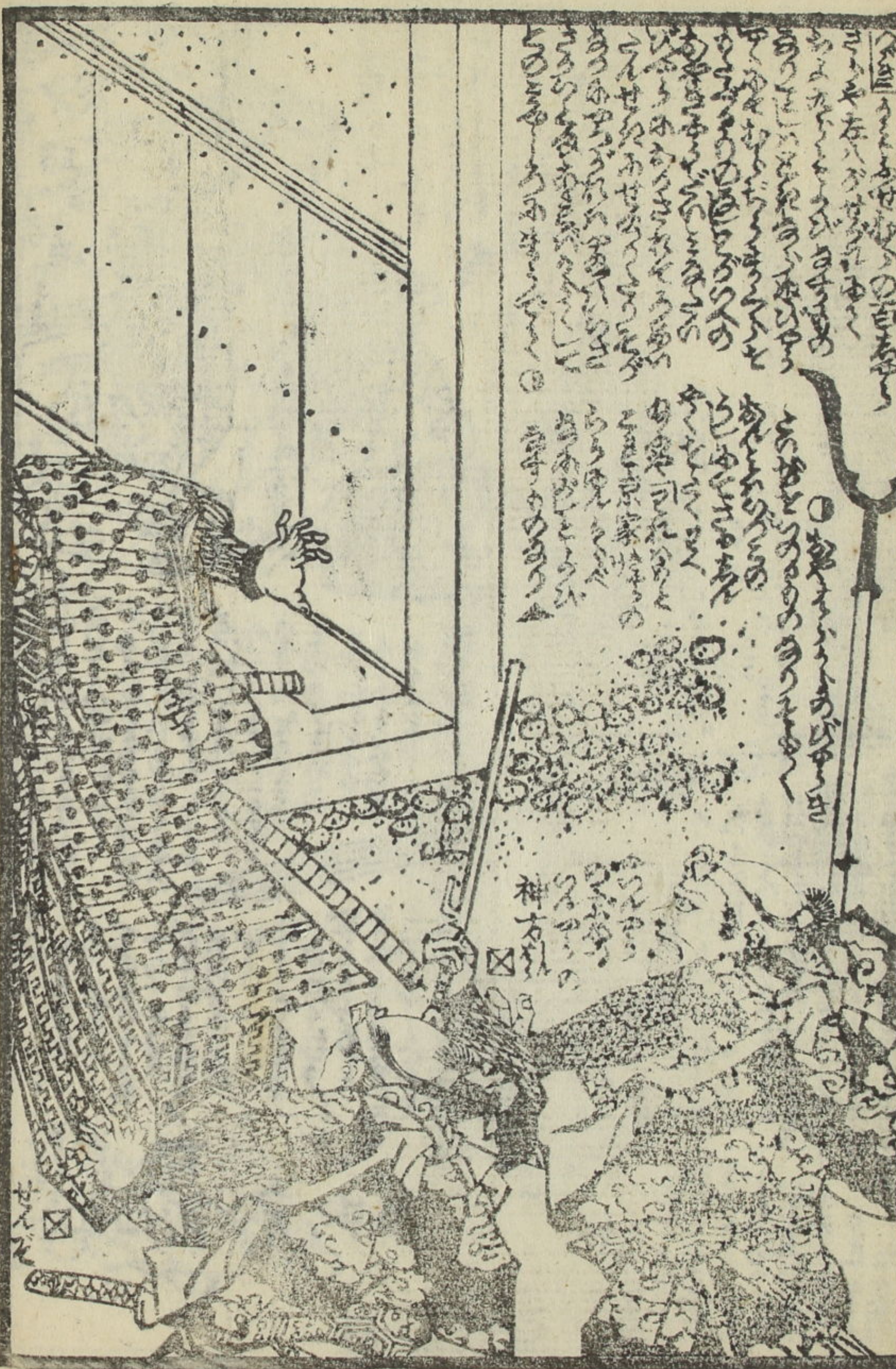


Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script or commentary, surrounding the illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script or commentary, surrounding the illustration.

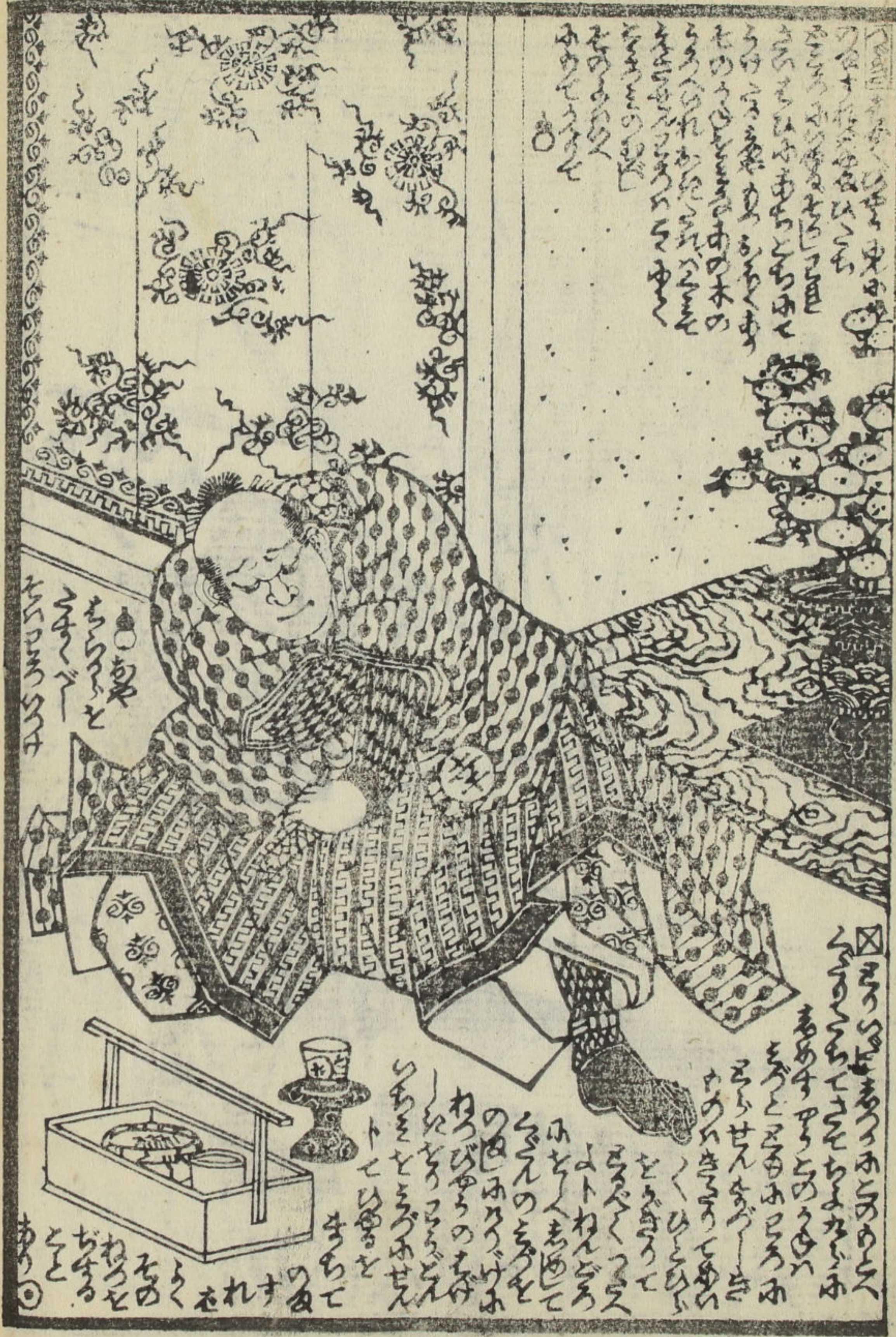
さて此の如く... 侍の言を...

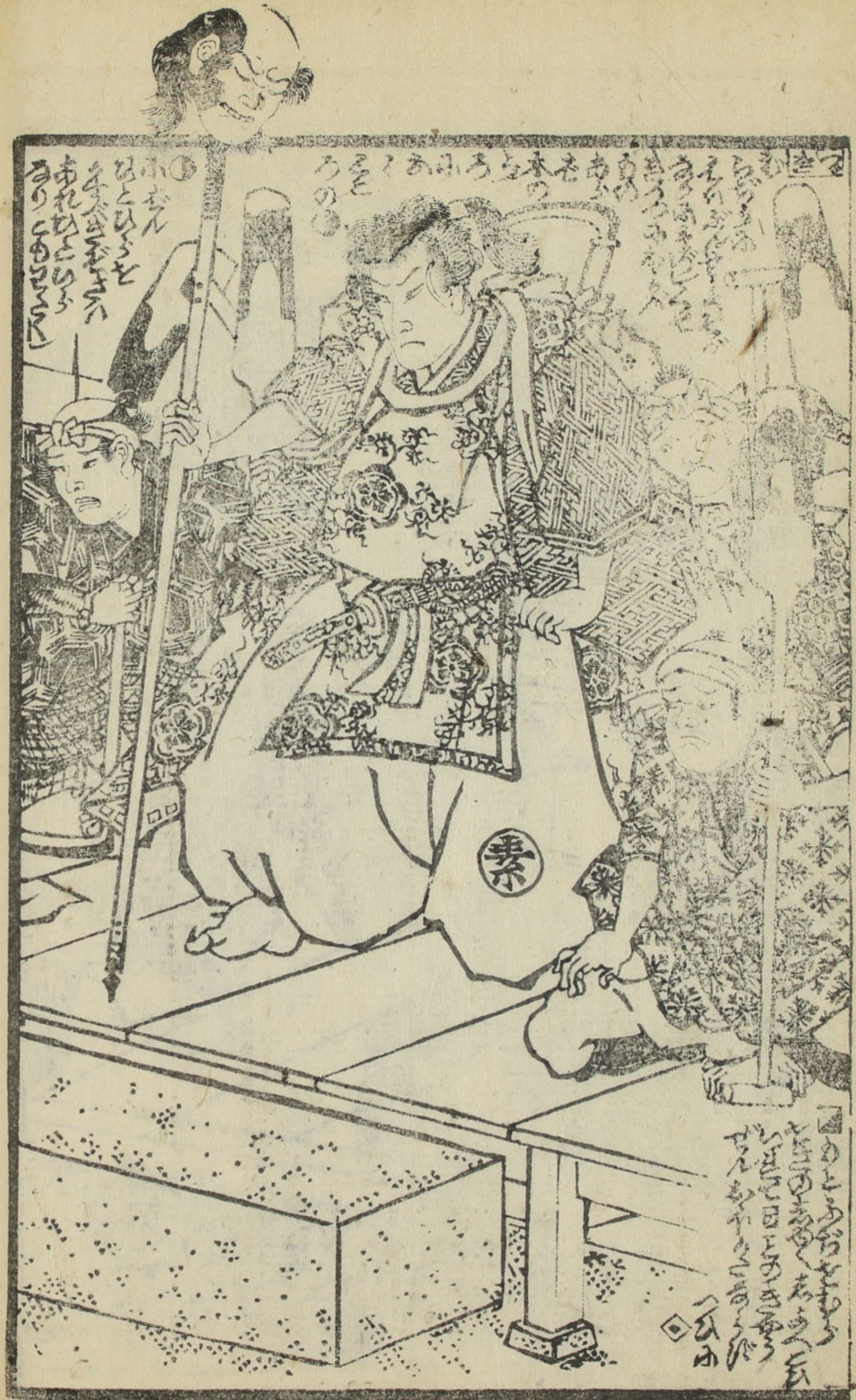
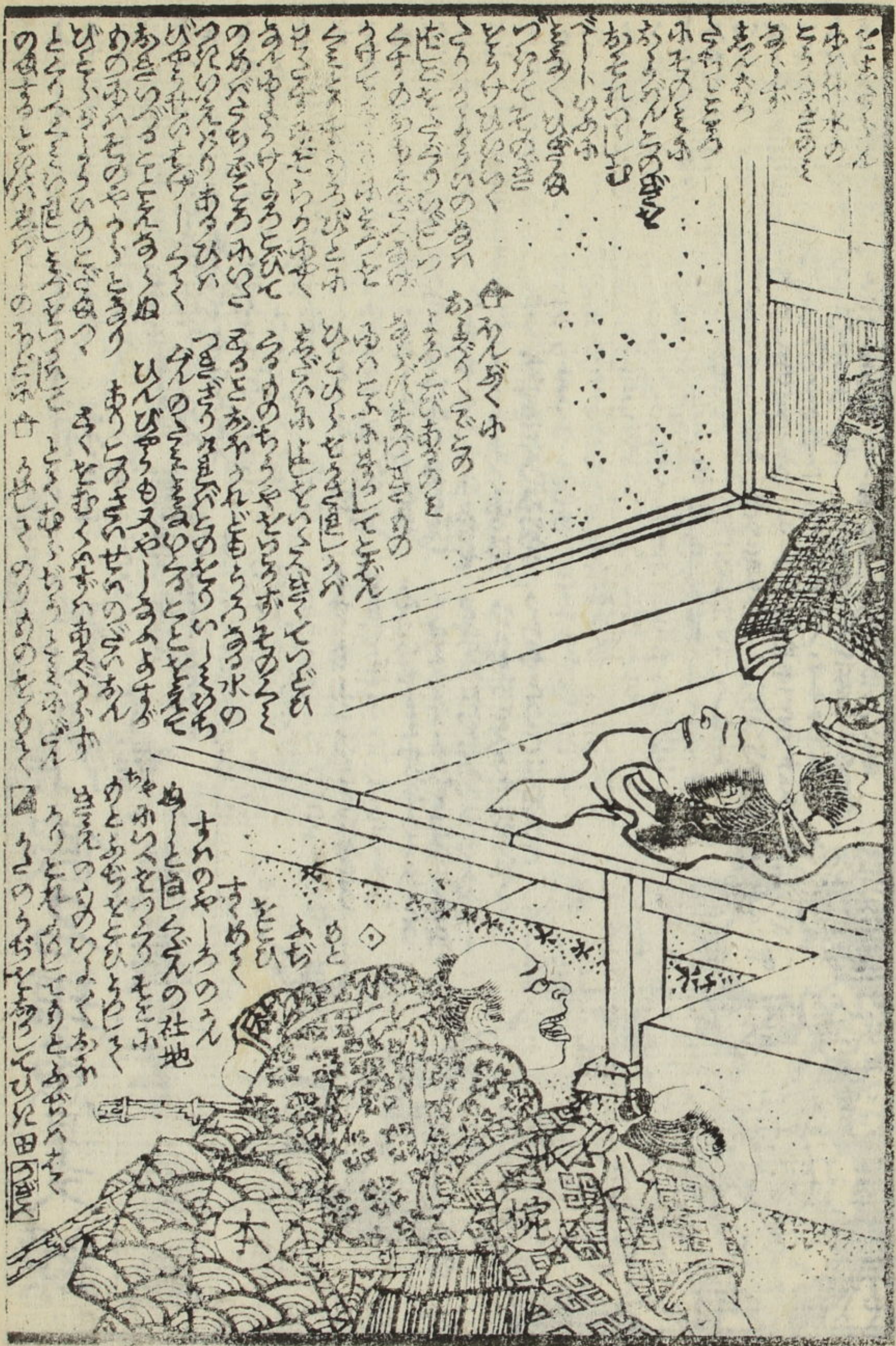


侍の言を... 侍の言を...



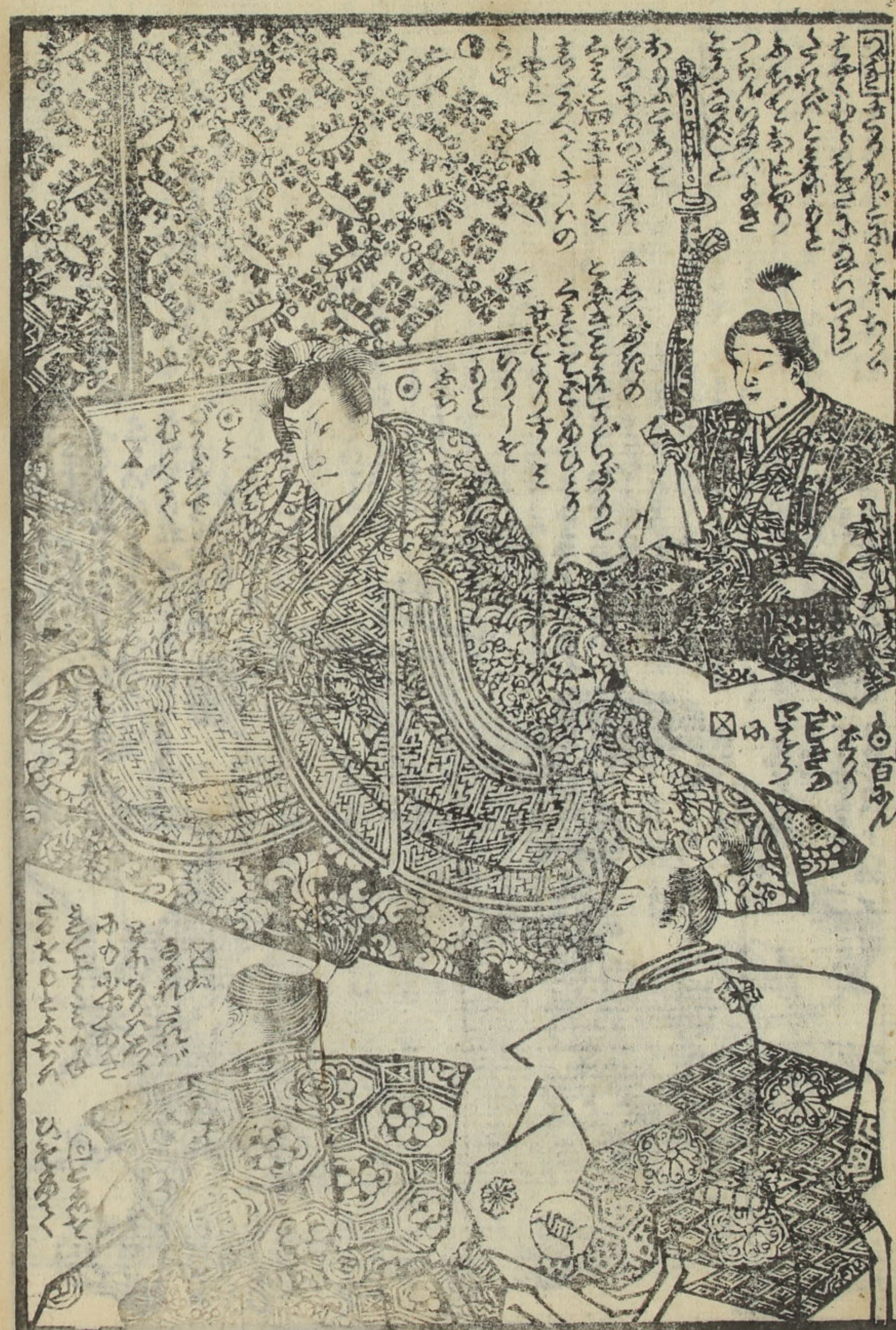
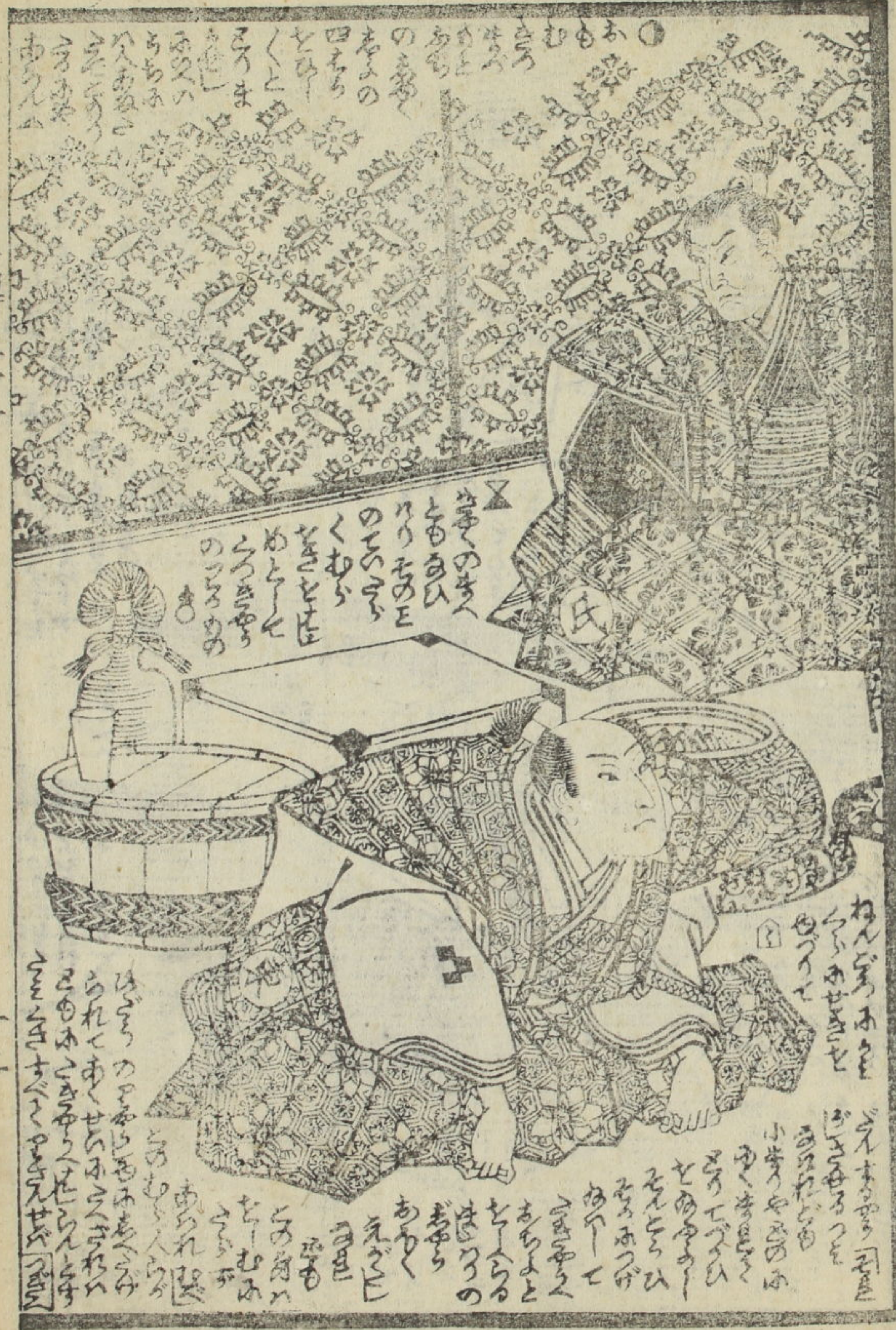
侍の言を... 侍の言を...

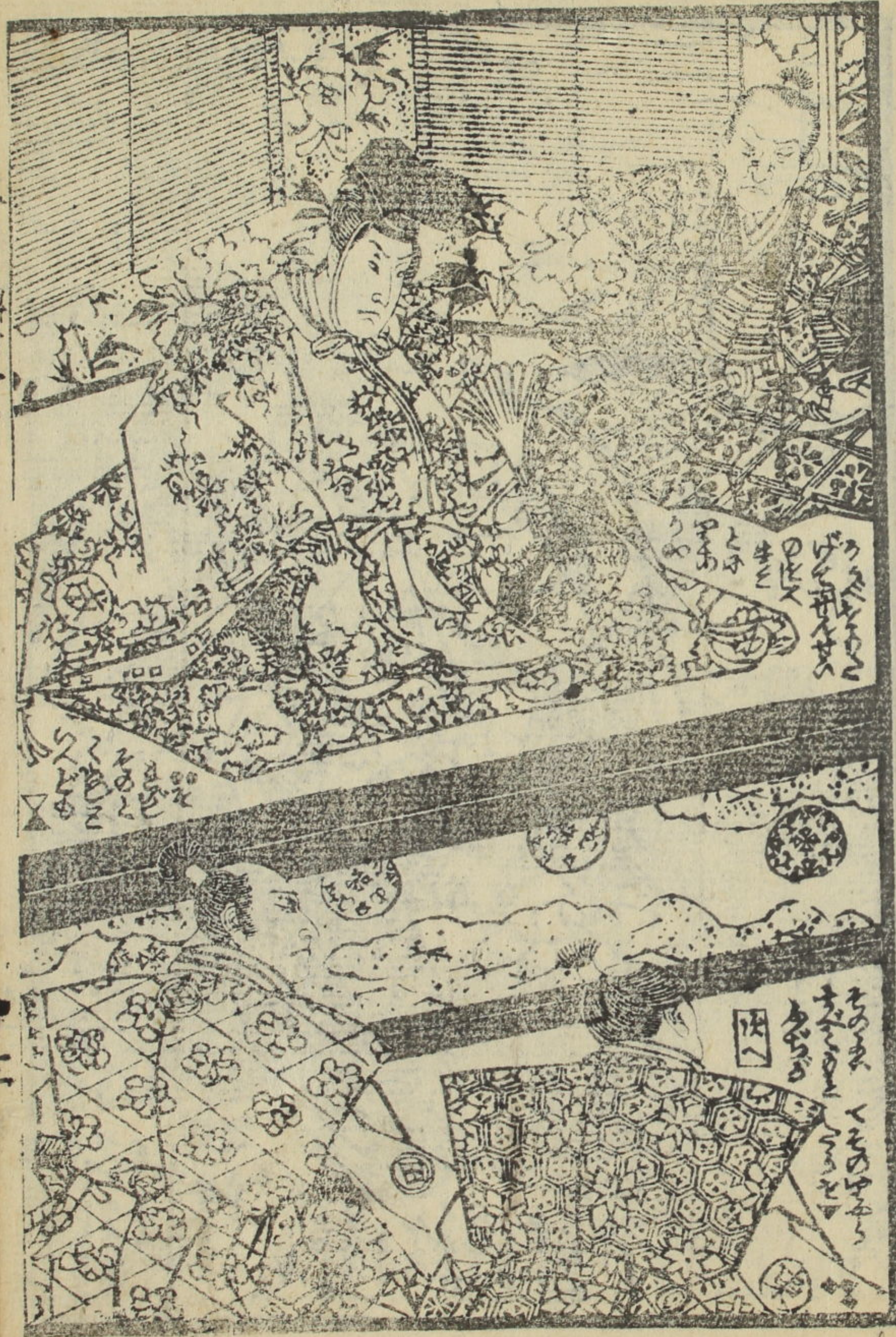




大徳三十一

一

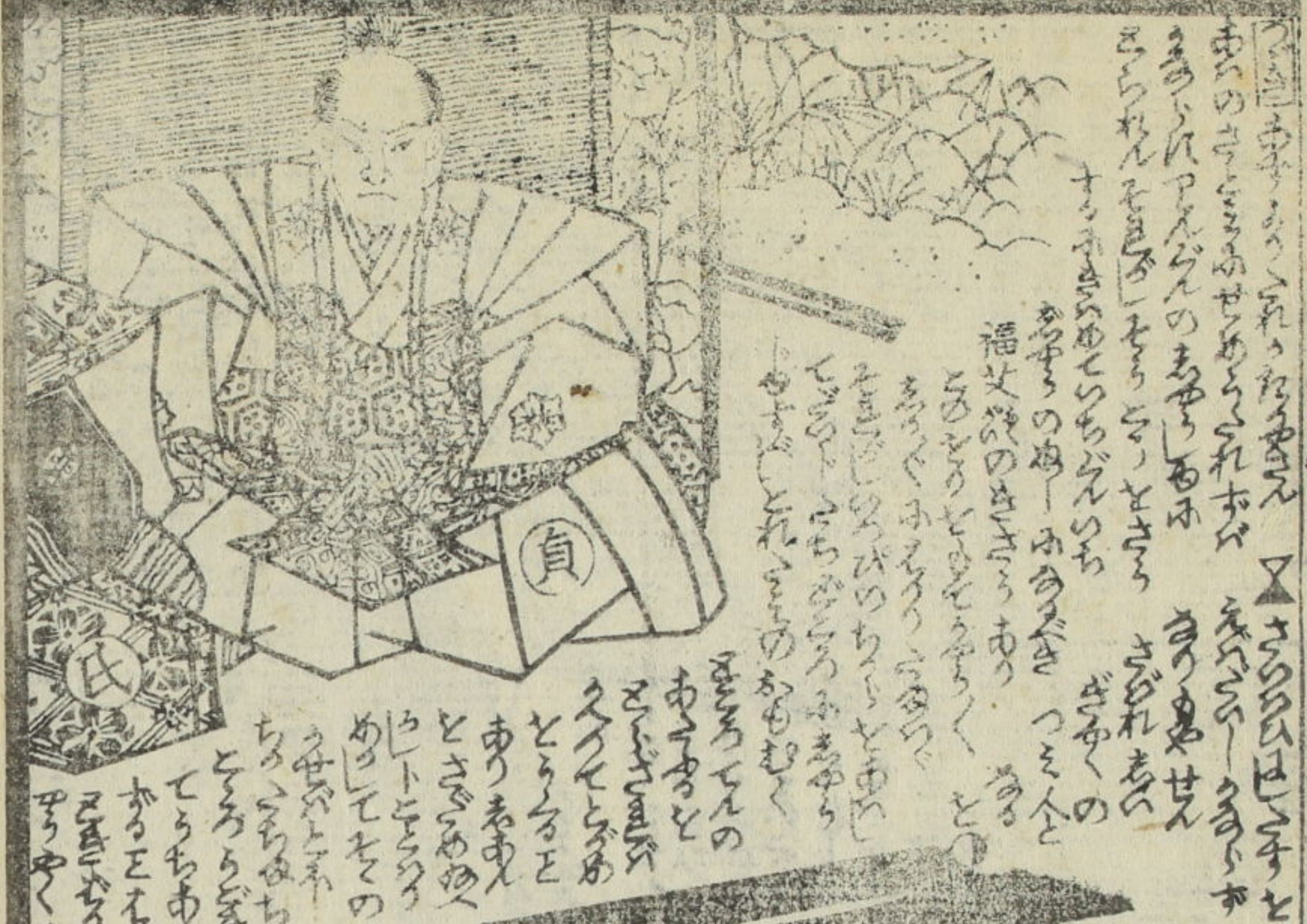




うさへをりて
びを押しさ
ひき
うさへ
うさへ

うさへ
うさへ

うさへ
うさへ



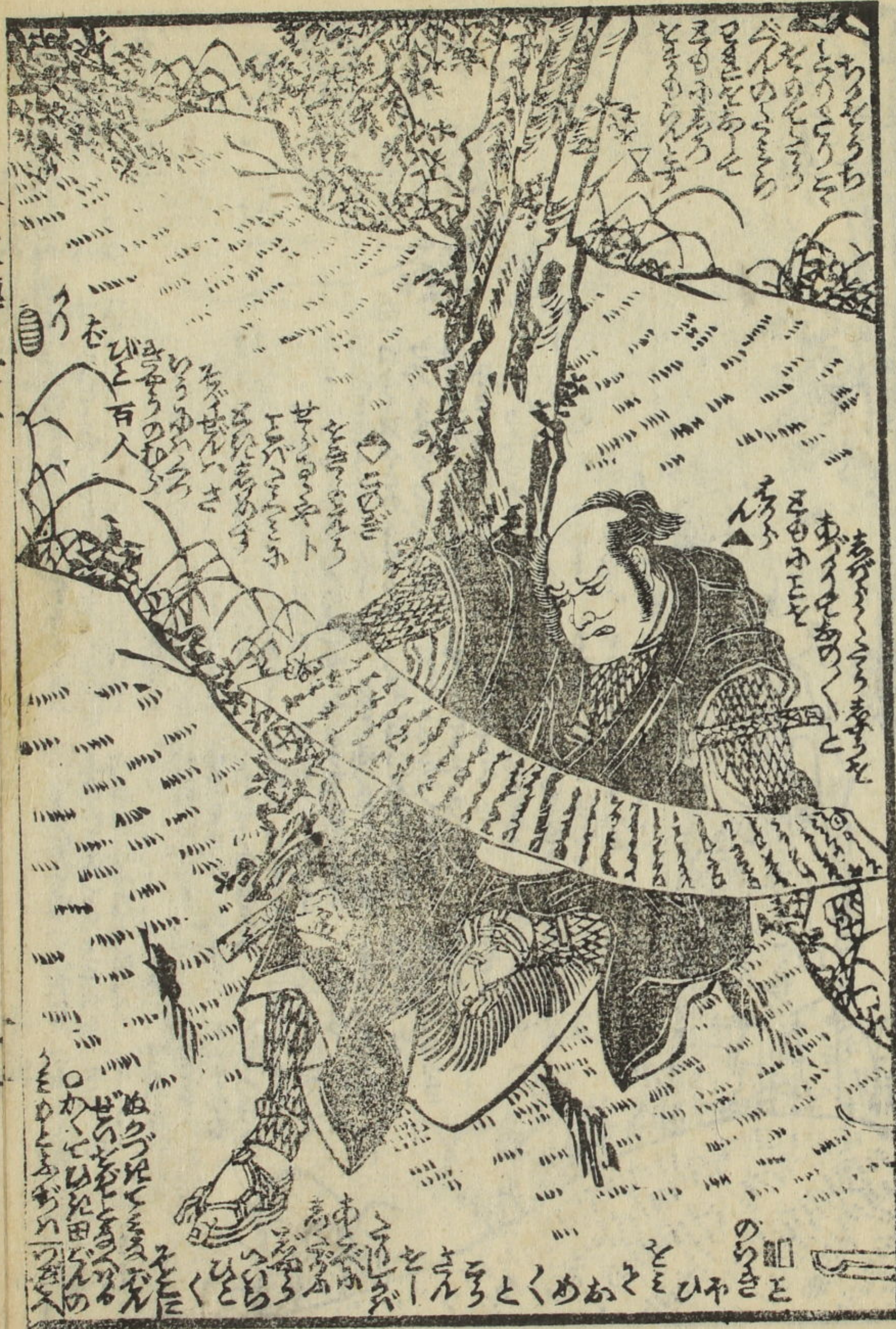
あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの

あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの



あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの

あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの
あつてんの

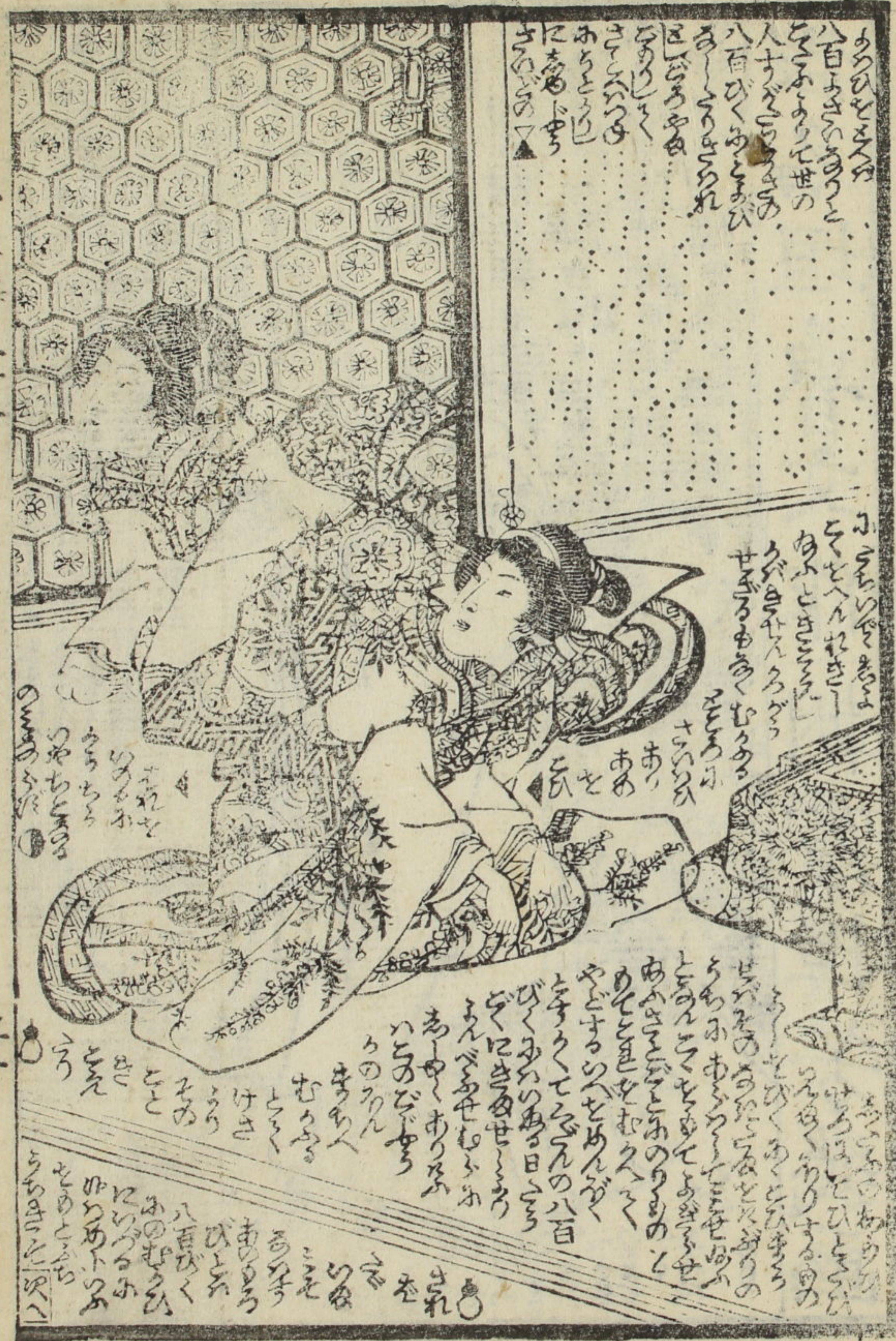




四

大傳三十一

十五



あつとそとを
八百五十年のついで
とてあつて世の
人すそとついで
八百五十年のついで
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを



あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを
あつとそとを

あつとそとを

假名垣魯文作 朝霞樓芳幾画



Handwritten text in the upper right corner, likely a commentary or description of the scene.

Handwritten text in the middle right, possibly identifying the figures or the setting.

Handwritten text at the bottom of the illustration, providing further details or a signature.

